
玄海原子力発電所周辺環境放射能調査結果

令和5年度
(令和5年7月～9月)

令和5年11月

佐賀県

目 次

1 目的	1
2 実施機関	1
3 調査期間	1
4 調査項目	1
5 調査及び評価の方法	2
6 調査結果及び評価	4
(1) 空間放射線	4
(2) 環境試料中の放射能	8
(3) 大気浮遊じん中の放射能	12
添付資料	13
参考資料	36

1 目的

佐賀県と九州電力株式会社では、「原子力発電所の安全確保に関する協定書」に基づき、周辺地域住民の安全確保と周辺環境の保全のため、玄海原子力発電所周辺の環境放射能調査を実施している。

また、この調査は、玄海原子力発電所からの放射性物質放出を検知した場合あるいはその可能性が否定できない場合に、その影響による被ばく線量を推定するためにも実施するが、これまでに玄海原子力発電所の影響による放射線等の異常は確認されていない。

なお、我が国における原子力施設周辺の平常の環境放射線モニタリングを規定している「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）」（平成30年4月、原子力規制庁）においては、平常時の環境放射線モニタリングの目的について、「原子力施設の平常時の周辺環境における空間放射線量率及び放射性物質の濃度を把握しておくことにより、緊急時モニタリングに備えておくとともに、原子力施設の異常を早期に検出し、その周辺住民及び周辺環境への影響を評価すること」とされており、具体的には次の4項目に集約されている。

- ・ 周辺住民等の被ばく線量の推定及び評価
- ・ 環境における放射性物質の蓄積状況の把握
- ・ 原子力施設からの予期しない放射性物質又は放射線の放出の早期検出及び周辺環境への影響評価
- ・ 緊急事態が発生した場合への平常時からの備え

本調査は、年度ごとに上記4項目を網羅した調査計画を策定し、実施するものである。

2 実施機関

佐賀県：環境センター、唐津保健福祉事務所、東松浦農業振興センター、
玄海水産振興センター
九州電力株式会社：玄海原子力発電所

3 調査期間

令和5年7月1日から9月30日まで（令和5年度第2四半期）

4 調査項目

（1）空間放射線

- ア モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）
- イ モニタリングポスト（電離箱式検出器）
- ウ 放水口モニタ
- エ 走行サーベイ

(2) 環境試料中の放射能

- ア ガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析
- イ 放射化学分析による放射能測定
 - ① 放射性ストロンチウム分析
 - ② トリチウム分析

(3) 大気浮遊じん中の放射能

- ア 大気浮遊じんの連続測定
- イ 大気中の放射性ヨウ素濃度の測定

5 調査及び評価の方法

平常時には空間放射線、環境試料中の放射能及び大気浮遊じん中の放射能の各調査を実施する。今年度調査する項目の平常の変動範囲は次表のとおり設定する。
なお、前年度のデータ収集がない調査項目については平常の変動範囲を設定しない。

調査項目	評価対象データ	平常の変動範囲	変動範囲設定のためのデータ収集期間
空間放射線量率 (NaI(Tl)シンチレーション式検出器)	1時間平均値	地点ごとの測定値の平均値(M) ±標準偏差(σ)の3倍の範囲	過去3か年
空間放射線量率 (電離箱式検出器)	1時間平均値	地点ごとの過去の最大値	測定開始～前年度
放水口計数率	1時間平均値	地点ごとの測定値の平均値(M) ±標準偏差(σ)の3倍の範囲	過去3か年
環境試料中の放射能	^{60}Co 、 ^{131}I 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{90}Sr 、 ^3H の放射能濃度	試料ごとの過去の放射能濃度範囲	測定開始～前年度
大気浮遊じん中の放射能	^{60}Co 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{131}I の放射能濃度	過去の放射能濃度範囲	測定開始～前年度

測定結果が平常の変動範囲を超過した場合、次の原因調査を行い、玄海原子力発電所からの影響の有無について判断する。その結果、玄海原子力発電所からの影響があったと判断した場合には、玄海原子力発電所からの影響分の外部被ばく線量又は内部被ばく線量の推定を行う。

(原因調査項目)

- ・ 試料採取方法・処理方法、測定器の性能、測定方法等の測定条件の変化
- ・ 降雨、降雪、雷、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化
- ・ 核爆発実験等の影響
- ・ 医療・産業用の放射性同位元素等の影響
- ・ 原子力施設の運転状況の変化

(1) 空間放射線

次のアからエの検出器又は測定方法により、空間放射線量率等の連続測定を行い、測定データについては、テレメータシステムによる収集、解析を行う。

ア モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）

空間放射線量率の連続測定、テレメータシステムによる測定データの収集、解析を行い、玄海原子力発電所周辺の空間放射線量率の変動を把握する。

イ モニタリングポスト（電離箱式検出器）

空間放射線量率の連続測定、テレメータシステムによる測定データの収集、解析を行い、緊急時への備えとして玄海原子力発電所から 30km 圏内の平常値を把握する。

ウ 放水口モニタ

放水口計数率の連続測定、テレメータシステムによる測定データの収集、解析を行い、玄海原子力発電所から放出される排水中の放射性物質の濃度変化を計数率として把握する。

エ 走行サーベイ

走行サーベイ車又はモニタリングカーで走行しながら空間放射線量率の測定を行い、緊急時への備えとして玄海原子力発電所から 30km 圏内の平常値を把握する。

(2) 環境試料中の放射能

次のア及びイの分析方法により、環境試料中の放射能測定を行い、各試料の放射能の平常値の把握、玄海原子力発電所からの影響の有無等について評価を行う。

ア ガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析

環境試料中に含まれる放射性物質の量を把握するため、ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析を行う。

イ 放射化学分析による放射能測定

環境試料中に含まれる放射性物質の量を把握するため、①放射性ストロンチウム分析法又は②トリチウム分析法による放射能測定を行う。

(3) 大気浮遊じん中の放射能

次のア及びイの測定方法により、大気浮遊じん中の放射能測定を行い、平常値の把握、玄海原子力発電所からの影響の有無等について評価を行う。

ア 大気浮遊じんの連続測定

ダストサンプラにより大気を一定期間連続吸引し、ろ紙上に大気浮遊じんを採取し、ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析を行い、大気浮遊じん中に含まれる放射性物質の平常値を把握する。

イ 大気中の放射性ヨウ素濃度の測定

ヨウ素サンプラにより大気を連続吸引し、活性炭カートリッジ及びろ紙上に大気浮遊じんを採取し、ヨウ素モニタにより放射性ヨウ素の測定を行う。

測定結果は、緊急時への備えとして玄海原子力発電所から 30km 圏内の放射性ヨウ素の平常値を把握する。

6 調査結果及び評価

令和5年度第2四半期の調査結果については、一部の測定において、平常の変動範囲の上限値を超過するものがあったが、要因調査を行ったところ、玄海原子力発電所からの放射線又は放射性物質に起因するものではなかった。

また、空間放射線、環境試料中の放射能及び大気浮遊じん中の放射能の各調査において、玄海原子力発電所からの影響があったと考えられる結果は確認されなかった。

(1) 空間放射線

ア モニタリングポスト (NaI(Tl)シンチレーション式検出器)

NaI(Tl)シンチレーション式検出器によるモニタリングポスト(10局)での空間放射線量率(低線量率)の1時間平均値の連続測定結果は、次表のとおりであった。各局で平常の変動範囲の上限値を超えたものがあったが、いずれも降雨の影響によるものであり、玄海原子力発電所に起因すると考えられる放射線の異常は認められなかった。

(単位:nGy/h)

局名	月	線量率(1時間値)			平常の変動範囲		平常の変動範囲を超えたデータ数(%)	超えた要因	
		最小値	平均値	最大値	(M-3σ)	(M+3σ)			
県設置局	今村	7	27	30	91	18	42	34 (4.57)	降雨
		8	28	30	44			1 (0.13)	降雨
		9	26	30	47			3 (0.42)	降雨
	平尾	7	31	34	68	24	46	30 (4.03)	降雨
		8	32	34	49			1 (0.13)	降雨
		9	32	34	50			1 (0.14)	降雨
	串	7	30	33	99	22	45	29 (3.90)	降雨
		8	32	33	43			0 (0.00)	
		9	31	33	49			3 (0.42)	降雨
	先部	7	29	32	93	20	44	30 (4.03)	降雨
		8	30	32	45			1 (0.13)	降雨
		9	29	32	46			2 (0.28)	降雨
	外津浦	7	31	33	76	24	41	34 (4.57)	降雨
		8	31	32	43			1 (0.13)	降雨
		9	31	32	45			4 (0.56)	降雨
京泊先	7	30	32	59	22	42	30 (4.03)	降雨	
	8	30	32	46			1 (0.13)	降雨	
	9	30	32	47			2 (0.28)	降雨	
九電設置局	正門南	7	23	25	63	16	34	30 (4.03)	降雨
		8	24	25	33			0 (0.00)	
		9	23	25	38			4 (0.56)	降雨
	岸壁	7	21	23	54	15	31	30 (4.04)	降雨
		8	21	22	34			1 (0.13)	降雨
		9	21	23	34			4 (0.56)	降雨
	値賀崎	7	20	22	44	15	29	29 (4.10)	降雨
		8	20	21	31			2 (0.27)	降雨
		9	20	22	32			2 (0.28)	降雨
	ダム南	7	22	24	64	15	33	31 (4.17)	降雨
		8	23	24	35			1 (0.13)	降雨
		9	22	24	37			6 (0.83)	降雨

イ モニタリングポスト（電離箱式検出器）

電離箱式検出器によるモニタリングポスト（26局）での空間放射線量率（高線量率）の1時間平均値の連続測定結果は、次表のとおりであり、いずれも平常の変動範囲内にあった。

（単位:nGy/h）

局名	月	線量率(1時間値)			過去の最大値	平常の変動範囲を 超えたデータ数	超えた要因
		最小値	平均値	最大値			
今村	7	62	65	123	134	0	
	8	63	65	78		0	
	9	62	65	79		0	
平尾	7	65	68	99	134	0	
	8	66	68	81		0	
	9	65	67	81		0	
串	7	55	64	122	137	0	
	8	50	61	73		0	
	9	56	63	76		0	
先部	7	66	70	124	135	0	
	8	67	70	82		0	
	9	66	69	82		0	
外津浦	7	63	67	106	114	0	
	8	64	66	77		0	
	9	64	66	76		0	
京泊先	7	65	68	91	126	0	
	8	66	68	82		0	
	9	65	67	81		0	
屋形石	7	56	61	99	118	0	
	8	55	59	73		0	
	9	56	59	70		0	
大良	7	74	77	109	136	0	
	8	75	78	97		0	
	9	74	77	91		0	
諸浦	7	62	65	94	133	0	
	8	63	65	79		0	
	9	63	65	79		0	
入野	7	60	63	95	139	0	
	8	61	63	89		0	
	9	60	62	74		0	
寺浦	7	61	65	95	131	0	
	8	64	67	82		0	
	9	62	67	80		0	
名護屋	7	65	69	133	149	0	
	8	66	69	81		0	
	9	65	68	82		0	
石室	7	60	63	95	132	0	
	8	62	64	73		0	
	9	60	63	71		0	
加倉	7	62	65	103	137	0	
	8	62	64	84		0	
	9	61	64	80		0	

(続き)

(単位:nGy/h)

局名	月	線量率(1時間値)			過去の最大値	平常の変動範囲を 超えたデータ数	超えた要因
		最小値	平均値	最大値			
呼子	7	70	73	113	123	0	
	8	72	74	84		0	
	9	70	73	82		0	
馬渡島	7	66	69	113	128	0	
	8	67	70	85		0	
	9	67	69	104		0	
加唐島	7	70	73	101	135	0	
	8	72	74	82		0	
	9	71	73	84		0	
向島	7	64	67	104	124	0	
	8	65	67	82		0	
	9	64	66	82		0	
小川島	7	68	71	108	157	0	
	8	69	72	84		0	
	9	67	71	108		0	
二太子	7	71	75	103	131	0	
	8	72	74	94		0	
	9	72	74	87		0	
山本	7	77	80	123	152	0	
	8	78	81	102		0	
	9	77	80	95		0	
波多津	7	71	76	122	131	0	
	8	66	75	96		0	
	9	72	76	90		0	
田野	7	72	75	119	147	0	
	8	73	75	94		0	
	9	72	75	89		0	
相知	7	67	73	136	139	0	
	8	64	71	98		0	
	9	66	71	90		0	
松浦	7	67	72	110	143	0	
	8	69	73	94		0	
	9	67	72	97		0	
立花	7	73	77	109	135	0	
	8	74	78	98		0	
	9	73	76	96		0	

ウ 放水口モニタ

放水口モニタ（3局）による計数率の1時間値の測定結果については次表のとおりであり、平常の変動範囲の上限値を超えたものがあつたが、降雨及び測定装置内の付着物（海生生物等）の影響によるものであり、玄海原子力発電所に起因すると考えられる放射線の異常は認められなかった。

(単位:cpm)

局名	月	計数率(1時間値)			平常の変動範囲		平常の変動範囲を超えたデータ数(%)	超えた要因	
		最小値	平均値	最大値	(M-3σ)	(M+3σ)			
九電設置局	1、2号放水口	7	452	470	757	414	513	8 (1.08)	降雨
		8	450	468	489			0 (0.00)	
		9	448	461	493			0 (0.00)	
	3号放水口	7	342	350	362	339	366	0 (0.00)	
		8	345	353	363			0 (0.00)	
		9	346	355	389			2 (0.28)	降雨
	4号放水口	7	340	349	358	336	361	0 (0.00)	
		8	345	353	365			4 (0.54)	降雨
		9	344	354	374			7 (0.98)	降雨等

(注1)「1、2号放水口モニタ」は「3号及び4号放水口モニタ」より計数率の変動が大きい。これは、3号機及び4号機は沖合約100～120m、水深約10～13mから海水の取水を行っているのに対し、1号機及び2号機が海面～水深約9mから取水を行っていること、また、「3号及び4号放水口モニタ」は放水管から放水を取り出し、建屋内で測定しているのに対し、「1、2号放水口モニタ」は屋外の放水口(海中)で測定していることから、降雨などによる環境放射線の変動の影響を受けやすいためと考えられる。

(注2)4号放水口モニタにおいて、降雨のない時間帯に測定値が平常の変動範囲を超えたものがあつたが、調査の結果、要因の一つとして、測定装置内の付着物(海生生物等)による計数率への影響が考えられる。

エ 走行サーベイ

走行サーベイ車による空間放射線量率の連続測定結果は、次表のとおりであった。

(単位:μSv/h)

測定地点	測定結果	測定機器
発電所周辺道路 (発電所から5km～30km)	全て0.20未満 (参考:測定値範囲0.02～0.06)	CsI(Tl)シンチレーション式検出器

(2) 環境試料中の放射能

ア ガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析

ガンマ線スペクトロメトリーによる環境試料中の放射能測定結果は下表 a から d のとおりであり、いずれも平常の変動範囲内にあった。

なお、一部の試料から、主に過去の大気中の核実験の影響によるものと考えられるセシウム 137 (^{137}Cs) が検出されたが、検出された放射性物質の量はいずれもごく微量であり、健康へ影響を与えることはない。

a 農畜産物・植物

(単位:Bq/kg 生 ただし牛乳は Bq/L)

試料名	試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因	
牛乳	牛乳	3	^{60}Co	ND	ND	無	
		3	^{131}I	ND	ND ~ 0.072	無	
		3	^{134}Cs	ND	ND	無	
		3	^{137}Cs	ND	ND ~ 0.29	無	
穀物	米	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		1	^{131}I	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND	ND ~ 0.33	無	
指標生物	松葉	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{131}I	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND, 0.050	ND ~ 4.1	無	

b 海産生物

(単位:Bq/kg 生)

試料名	試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因	
魚	たい	1	^{60}Co	ND	ND	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	0.072	ND ~ 0.48	無	
	かわはぎ	1	^{60}Co	ND	ND	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	ND	ND ~ 0.19	無	
	えそ類	1	^{60}Co	ND	ND	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	0.14	ND ~ 0.52	無	
無脊椎動物	いか	1	^{60}Co	ND	ND	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	ND	ND ~ 0.26	無	
指標生物	ほんだわら類	1	^{60}Co	ND	ND	無	
		1	^{131}I	ND	ND	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	ND	ND ~ 0.19	無	
その他	むらさきいんこがい	1	^{60}Co	ND	ND ~ 0.22	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	ND	ND ~ 0.039	無	

c 水

(単位:mBq/L)

試料名	試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因	
陸水	水道水	1	⁶⁰ Co	ND	ND	無	
		1	¹³¹ I	ND	ND	無	
		1	¹³⁴ Cs	ND	ND	無	
		1	¹³⁷ Cs	ND	ND	無	
	河川水	1	⁶⁰ Co	ND	ND	無	
		1	¹³¹ I	ND	ND	無	
		1	¹³⁴ Cs	ND	ND	無	
		1	¹³⁷ Cs	ND	ND	無	
	ダム水	1	⁶⁰ Co	ND	ND	無	
		1	¹³¹ I	ND	ND	無	
		1	¹³⁴ Cs	ND	ND	無	
		1	¹³⁷ Cs	ND	ND	無	
海水	表層水 (放水口付近)	4	⁶⁰ Co	ND	ND	無	
		4	¹³¹ I	ND	ND	無	
		4	¹³⁴ Cs	ND	ND	無	
		4	¹³⁷ Cs	ND ~ 1.7	ND ~ 11	無	
	表層水 (取水口付近)	2	⁶⁰ Co	ND	ND	無	
		2	¹³¹ I	ND	ND	無	
		2	¹³⁴ Cs	ND	ND	無	
		2	¹³⁷ Cs	1.9	ND ~ 11	無	

d 土

(単位:Bq/kg 乾)

試料名	試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因	
土壌	表層土	5	⁶⁰ Co	ND	ND	無	
		5	¹³⁴ Cs	ND	ND	無	
		5	¹³⁷ Cs	ND ~ 0.72	ND ~ 43	無	
海底土	表層土 (放水口付近)	4	⁶⁰ Co	ND	ND	無	
		4	¹³⁴ Cs	ND	ND	無	
		4	¹³⁷ Cs	ND	ND ~ 0.67	無	
	表層土 (取水口付近)	2	⁶⁰ Co	ND	ND	無	
		2	¹³⁴ Cs	ND	ND	無	
		2	¹³⁷ Cs	ND	ND ~ 3.0	無	

(注1)ND…検出下限値未満を示す。

(注2)試料数が2以上で測定結果が範囲を示していない試料は、測定結果がすべて同一値である。

(注3)昭和61年度に測定した環境試料の測定値については、旧ソ連原子力発電所事故(昭和61年4月26日発生)の影響を受けているものがあるため、平常の変動範囲は昭和61年度分を除いたものを記載している。

(注4)平成23、24年度に測定した環境試料の測定値については、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故の影響を受けているものがあるため、平常の変動範囲は平成23、24年度分を除いたものを記載している。

イ 放射化学分析による放射能測定

① 放射性ストロンチウム分析

環境試料中の放射性ストロンチウム (^{90}Sr) の測定結果は下表 a から d のとおりであり、いずれも平常の変動範囲内にあった。

なお、一部の試料から、主に過去の大気中の核実験の影響によるものと考えられる放射性ストロンチウムが検出されたが、検出された放射性物質の量はいずれもごく微量であり、健康へ影響を与えることはない。

a 農畜産物・植物

(単位:牛乳は Bq/L、米は Bq/kg 生)

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
牛乳	牛乳	1	^{90}Sr	ND	ND ~ 0.21	無	
穀物	米	1	^{90}Sr	ND	ND ~ 0.15	無	

b 海産生物

(単位:Bq/kg 生)

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
魚	かわはぎ	1	^{90}Sr	ND	ND ~ 0.26	無	
指標生物	ほんだわら類	1	^{90}Sr	ND	ND ~ 0.37	無	

c 水

(単位:mBq/L)

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
海水	表層水 (放水口付近)	2	^{90}Sr	ND , 0.75	ND ~ 7.4	無	

d 土

(単位:Bq/kg 乾)

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
土壌	表層土	5	^{90}Sr	ND ~ 0.28	ND ~ 35	無	
海底土	表層土 (放水口付近)	4	^{90}Sr	ND	ND ~ 0.32	無	
	表層土 (取水口付近)	2	^{90}Sr	ND	ND ~ 0.18	無	

(注1)ND…検出下限値未満を示す。

(注2)試料数が2以上で測定結果が範囲を示していない試料は、測定結果がすべて同一値である。

(注3)昭和61年度に測定した環境試料の測定値については、旧ソ連原子力発電所事故(昭和61年4月26日発生)の影響を受けているものがあるため、平常の変動範囲は昭和61年度分を除いたものを記載している。

(注4)平成23、24年度に測定した環境試料の測定値については、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故の影響を受けているものがあるため、平常の変動範囲は平成23、24年度分を除いたものを記載している。

② トリチウム分析

海水・陸水中のトリチウム (^3H) の測定結果は次表のとおりであり、いずれも平常の変動範囲内にあった。

(単位:Bq/L)

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
陸水	水道水	1	^3H	0.25	ND ~ 2.3	無	
	河川水	1	^3H	ND	ND ~ 2.3	無	
	ダム水	1	^3H	ND	ND ~ 1.6	無	
海水	表層水 (放水口付近)	2	^3H	ND	ND ~ 3.5	無	

(注1)ND…検出下限値未満を示す。

(注2)海水の放水口付近については、過去、発電所からのトリチウムの放出(管理された放出であり、法令等に定める基準以下)の影響を受け、それ以外の測定値に比べ高い値(41Bq/L)となったものがあるため、平常の変動範囲は当該値を除いたものを記載している。

(3) 大気浮遊じん中の放射能

ア 大気浮遊じんの連続測定

大気浮遊じんの連続測定結果については次表のとおりであり、平常の変動範囲内にあった。

(単位:mBq/m³)

試料名	試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
大気浮遊じん	4	⁶⁰ Co	ND	ND	無	
	4	¹³⁴ Cs	ND	ND	無	
	4	¹³⁷ Cs	ND	ND ~ 0.26	無	

(注)ND…検出下限値未満を示す。

イ 大気中の放射性ヨウ素濃度の測定

大気中の放射性ヨウ素 (¹³¹I) 濃度の測定結果については次表のとおりであり、放射性ヨウ素は検出されなかった。

測定地点	発電所からの		測定 年月日	測定結果 (Bq/m ³)	測定機器	調査機関
	方位	距離 (km)				
今村	ESE	0.8	R5. 8. 1	ND	佐賀県ヨウ素モニタ	環境センター

(注)ND…検出下限値未満を示す。

添付資料

- 1 走行サーベイ車による測定結果（詳細）
- 2 環境試料中の放射能（詳細）
- 3 令和5年度第2四半期 クロスチェック結果
- 4 環境試料前処理状況
- 5 測定方法及び測定機器
- 6 測定値の表示単位及び取扱い
- 7 令和5年度第2四半期の環境放射能調査項目

1 走行サーベイ車による測定結果（詳細）

発電所周辺主要道路（発電所から 5km～30km）

ア 第 11 ルート

測定年月日	調査機関	測定機器	測定結果(μSv/h)	測定データ数
R5. 7. 26	環境センター	走行サーベイ車 (CsI(Tl)シンチレーション式検出器)	全て 0.20 未満 (参考:測定値範囲 0.02～0.06)	339



イ 第 7 ルート

測定年月日	調査機関	測定機器	測定結果(μSv/h)	測定データ数
R5. 8. 25	環境センター	走行サーベイ車 (CsI(Tl)シンチレーション式検出器)	全て 0.20 未満 (参考:測定値範囲 0.02～0.06)	467



ウ 第3ルート

測定年月日	調査機関	測定機器	測定結果(μSv/h)	測定データ数
R5. 9. 25	唐津保健 福祉事務所	走行サーベイ車 (CsI(Tl)シンチレーション式検出器)	全て 0.20 未満 (参考:測定値範囲 0.02~0.05)	141



(参考)

県走行サーベイ車

測定機器 : CsI(Tl)シンチレーション式検出器



車内に可搬型の測定機器を設置して測定

2 環境試料中の放射能（詳細）

(1) 農畜産物・植物、海産生物

試料名	採取場所	採取年月日	単位	測定者	⁶⁰ Co	¹³¹ I	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	参考核種		
										⁴⁰ K	その他*	
農畜産物・植物	牛乳	栄	R5. 9. 13	Bq/L	県	ND	ND	ND	ND	ND	29	ND
		田野	R5. 9. 13		県	ND	ND	ND	ND	-	54	ND
		浜野浦	R5. 8. 24		九電	ND	ND	ND	ND	-	49	ND
	米	平尾	R5. 9. 13	Bq/kg 生	県	ND	ND	ND	ND	-	26	ND
		諸浦	R5. 9. 13		県	ND	-	ND	ND	ND	26	ND
	松葉	納所	R5. 9. 19		県	ND	ND	ND	ND	-	68	ND
		敷地内	R5. 8. 21		九電	ND	ND	ND	0.050	-	77	ND
海産生物	たい	八田浦周辺	R5. 8. 21	Bq/kg 生	県	ND	-	ND	0.072	-	110	ND
	かわはぎ	八田浦周辺	R5. 8. 27		県	ND	-	ND	ND	ND	91	ND
	えそ類	八田浦周辺	R5. 8. 31		県	ND	-	ND	0.14	-	120	ND
	いか	八田浦周辺	R5. 7. 20		九電	ND	-	ND	ND	-	120	ND
	ほんだわら類	八田浦周辺	R5. 7. 26		県	ND	ND	ND	ND	ND	64	ND
	むらさきいんこがい	八田浦周辺	R5. 7. 31		県	ND	-	ND	ND	-	19	ND

※ その他の参考核種として、⁵⁴Mn、⁵⁹Fe、⁶⁵Zn、⁹⁵Zr 及び ¹⁴⁴Ce を測定。

(2) 陸水、海水

試料名	採取場所	採取年月日	単位	測定者	⁶⁰ Co	¹³¹ I	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	³ H	参考核種		
											⁴⁰ K	その他*	
陸水	水道水	値賀出張所	R5. 8. 8	mBq/L	県	ND	ND	ND	ND	-	0.25	46	ND
	河川水	志礼川	R5. 7. 24		九電	ND	ND	ND	ND	-	ND	71	ND
	ダム水	敷地内	R5. 7. 25		九電	ND	ND	ND	ND	-	ND	61	ND
海水	表層水 (放水口付近)	1、2号 放水口付近	R5. 8. 21	(³ Hは Bq/L)	県	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	ND
		1、2号 放水口付近	R5. 7. 18		九電	ND	ND	ND	1.7	-	-	-	ND
		3、4号 放水口付近	R5. 8. 21		県	ND	ND	ND	1.4	0.75	ND	-	ND
		3、4号 放水口付近	R5. 7. 18		九電	ND	ND	ND	1.7	-	-	-	ND
	表層水 (取水口付近)	1、2号 取水口付近	R5. 7. 6		九電	ND	ND	ND	1.9	-	-	-	ND
		3、4号 取水口付近	R5. 7. 6		九電	ND	ND	ND	1.9	-	-	-	ND

※ その他の参考核種として、⁵⁴Mn、⁵⁹Fe、⁶⁵Zn、⁹⁵Zr 及び ¹⁴⁴Ce を測定。

(3) 土壌、海底土

試料名	採取場所	採取年月日	単位	測定者	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	参考核種		
									⁴⁰ K	その他 [※]	
土壌	表層土	入野局	R5. 8. 4	Bq/kg乾	県	ND	ND	ND	0.28	370	ND
		寺浦局	R5. 8. 4		県	ND	ND	0.72	ND	710	ND
		波多津局	R5. 8. 4		県	ND	ND	ND	ND	730	ND
		田野局	R5. 8. 4		県	ND	ND	ND	ND	710	ND
		切木小学校	R5. 8. 4		県	ND	ND	ND	ND	650	ND
海底土	表層土 (放水口付近)	1、2号 放水口付近	R5. 8. 21		県	ND	ND	ND	ND	150	ND
		1、2号 放水口付近	R5. 7. 18		九電	ND	ND	ND	ND	88	ND
		3、4号 放水口付近	R5. 8. 21		県	ND	ND	ND	ND	180	ND
		3、4号 放水口付近	R5. 7. 18		九電	ND	ND	ND	ND	120	ND
	表層土 (取水口付近)	1、2号 取水口付近	R5. 7. 6		九電	ND	ND	ND	ND	190	ND
		3、4号 取水口付近	R5. 7. 6	九電	ND	ND	ND	ND	130	ND	

※ その他の参考核種として、⁵⁴Mn、⁵⁹Fe、⁶⁵Zn、⁹⁵Zr 及び ¹⁴⁴Ce を測定。

(4) 大気浮遊じん

試料名	採取場所	採取年月日	単位	測定者	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	参考核種	
								⁴⁰ K	その他 [※]
大気浮遊じん	今村局	R5. 7. 1~ R5. 7. 31	mBq/m ³	県	ND	ND	ND	0.38	ND
		R5. 8. 1~ R5. 8. 31		県	ND	ND	ND	0.38	ND
		R5. 9. 1~ R5. 9. 30		県	ND	ND	ND	0.24	ND
	正門南	R5. 6. 30~ R5. 9. 29		九電	ND	ND	ND	0.49	ND

※ その他の参考核種として、⁵⁴Mn、⁵⁹Fe、⁶⁵Zn、⁹⁵Zr 及び ¹⁴⁴Ce を測定。

3 令和5年度第2四半期 クロスチェック結果

試料名	採取場所	採取年月日	測定部位	単位	測定機関		調査核種						参考核種	
					県	九電	⁶⁰ Co	¹³¹ I	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	³ H		
海底土 (放水口付近)	3、4号 放水口付近	R5. 7. 18	表層土	Bq/kg 乾土	○	○	ND	-	ND	ND	ND	-	-	40K
					○	○	-	-	-	-	-	-	-	115
En 数の絶対値					-	-	-	-	-	-	-	-	13.4	
					-	-	-	-	-	-	-	-	115	
					-	-	-	-	-	-	-	-	13.4	
					-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	

※ 上段:測定値、下段:拡張不確かさ

<判定基準>

En 数の絶対値が 1 より大きくなった場合は、分析・測定結果について技術的な検討を行う。

X_県: 県の分析・測定結果

X_{九電}: 九電の分析・測定結果

U_県: 県の分析・測定結果に伴う拡張不確かさ

U_{九電}: 九電の分析・測定結果に伴う拡張不確かさ

※ 両機関とも「ND(検出下限値未満)」の場合は判定を行わない。

$$En \text{ 数} = \frac{X_{\text{県}} - X_{\text{九電}}}{\sqrt{U_{\text{県}}^2 + U_{\text{九電}}^2}}$$

4 環境試料前処理状況

(環境センター) No.1

令和5年度 第2四半期

試料名	採取地点	採取状況				前処理						測定		
		年月日	採取方法	採取量	供試量	部位	処理法	乾重量	含水量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量
牛乳	栄	R5.9.13	購入 (農家: 東松浦農業 振興センター)	17.72L	13.72L	原乳	105℃ 乾燥	—	450℃ 灰化	56.9g	0.415 w/v%	$^{134}\text{Cs}, ^{137}\text{Cs},$ ^{60}Co	灰 41.53g (生 10.02L)	Ge(Int) 80000秒
				—	生4L	—	—	—	—	—	—	—	^{90}Sr	灰 11.81g (生 2.85L)
米	田野	R5.9.13	購入 (農家: 東松浦農業 振興センター)	16.98L	12.98L	原乳	105℃ 乾燥	—	450℃ 灰化	102.7g	0.791 w/v%	$^{134}\text{Cs}, ^{137}\text{Cs},$ ^{60}Co	灰 56.30g (生 7.12L)	Ge(Int) 80000秒
				—	生4L	—	—	—	—	—	—	—	^{131}I	生 4L
米	平尾	R5.9.13	購入 (農家: 東松浦農業 振興センター)	5424g	5424g	精米	105℃ 乾燥	12.22%	乾 4632g 450℃ 灰化	26.0g	0.498%	$^{134}\text{Cs}, ^{137}\text{Cs},$ ^{60}Co	灰 24.34g (生 4888g)	Ge(Int) 80000秒
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	^{131}I	乾 184.16g (生 210g)
松葉	諸浦	R5.9.13	購入 (農家: 東松浦農業 振興センター)	5403g	5403g	精米	105℃ 乾燥	—	450℃ 灰化	25.5g	0.472%	$^{134}\text{Cs}, ^{137}\text{Cs},$ ^{60}Co	灰 24.89g (生 5274g)	Ge(Int) 80000秒
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	^{90}Sr	灰 4.72g (生 1000g)
松葉	納所	R5.9.19	手摘み (上場農村青年ク ラブ連絡協議会: 東松浦農業 振興センター)	2158g	2158g	葉のみ	105℃ 乾燥	64.31%	乾 697.5g 450℃ 灰化	17.7g	0.906%	$^{134}\text{Cs}, ^{137}\text{Cs},$ ^{60}Co	灰 16.52g (生 1824g)	Ge(Int) 80000秒
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	^{131}I	乾 80.21g (生 225g)

(環境センター) No.2

試料名	採取地点	採取状況				前処理						測定			
		年月日	採取方法	採取量	供試量	部位	処理法	乾重量	含水量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量	測定器
たい (マダイ)	八田浦 周辺	R5.8.21	ごち網 (漁業者)	3963g	3963g	全身	105℃ 乾燥	—	—	450℃ 灰化	241.2g	6.087%	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	灰 83.85g (生 1378g)	Ge(Int) 80000秒
かわはぎ (カワハギ)	八田浦 周辺	R5.8.27	ごち網 (漁業者)	2019g	2019g	全身	105℃ 乾燥	—	—	450℃ 灰化	111.3g	5.514%	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	灰 49.76g (生 903g)	Ge(Int) 80000秒
えぞ類 (マエソ属)	八田浦 周辺	R5.8.31	ごち網 (漁業者)	4119g	4119g	全身	105℃ 乾燥	—	—	450℃ 灰化	213.7g	5.189%	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	灰 90.92g (生 1752g)	Ge(Int) 80000秒
ほんだわら類 (主として ノギ'モク)	八田浦 周辺	R5.7.26	潜水夫による 手摘み (外津漁協)	13274g	13274g	全藻 (付着器 を除く)	105℃ 乾燥	3841g	71.07%	乾 3604g 450℃ 灰化	1290.7g	10.361%	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	灰 76.70g (生 740g)	Ge(Int) 80000秒
													^{90}Sr	灰 112.16g (生 1082g)	LBC-4502 60分
													^{131}I	乾 220.73g (生 763g)	Ge(Int) 80000秒
むらさき いんごがい	八田浦 周辺	R5.7.31	手摘み (玄海産業㈱)	2845g	2845g	身	105℃ 乾燥	—	—	450℃ 灰化	94.0g	3.304%	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	灰 84.94g (生 2570g)	Ge(Int) 80000秒

(環境センター) No.3

試料名	採取地点	採取状況		前処理			測定		
		年月日	採取方法	採取量	供試量	前処理法	測定区分	測定量	測定器
陸水 (水道水)	値賀出張所	R5.8.8	蛇口水 (環境センター)	60L	20L	蒸発乾固法	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	20L	Ge(Int) 80000秒
						硝酸銀法	^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒
						蒸留法	^3H	200mL	LSC-LB7 20分×50回
海水 (表層水) (放水口付近)	1、2号 放水口付近 (放水口の 沖合50m) 八田浦	R5.8.21	ポンプ 吸い上げ方式 水深70～80cm (玄海水産振興 センター)	140L	20L	AMP・MnO ₂ 法	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	20L	Ge(Int) 80000秒
					5L	クエン酸銀法	^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒
					40L	イオン交換法	^{90}Sr	40L	LBC-4502 60分
海水 (表層水) (放水口付近)	3、4号 放水口付近 (放水口の 沖合70m) 八田浦	R5.8.21	ポンプ 吸い上げ方式 水深70～80cm (玄海水産振興 センター)	140L	200mL	蒸留法	^3H	50mL	LSC-LB7 20分×50回
					20L	AMP・MnO ₂ 法	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	20L	Ge(Int) 80000秒
					5L	クエン酸銀法	^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒
海水 (表層水) (放水口付近)	3、4号 放水口付近 (放水口の 沖合70m) 八田浦	R5.8.21	ポンプ 吸い上げ方式 水深70～80cm (玄海水産振興 センター)	140L	40L	イオン交換法	^{90}Sr	40L	LBC-4502 60分
					200mL	蒸留法	^3H	50mL	LSC-LB7 20分×50回

(環境センター) No.4

試料名	採取地点	採取状況				前処理						測定			
		年月日	採取方法	採取量	供試量	部位	処理法	乾重量	含水量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量	測定器
土壌※ (表層土)	入野局	R5.8.4	採土器 表層から 0～5cmを採土 (一財)九州環境 管理協会)	624.4g	624.4g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	530.2g	15.09%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 103.04g	Ge(Int) 80000秒
		R5.8.4	採土器 表層から 0～5cmを採土 (一財)九州環境 管理協会)	555.7g	555.7g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	474.6g	14.59%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 119.31g	Ge(Int) 80000秒
	波多津局	R5.8.4	採土器 表層から 0～5cmを採土 (一財)九州環境 管理協会)	732.4g	732.4g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	684.8g	6.50%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 116.12g	Ge(Int) 80000秒
		R5.8.4	採土器 表層から 0～5cmを採土 (一財)九州環境 管理協会)	639.7g	639.7g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	580.6g	9.24%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 106.00g	Ge(Int) 80000秒
切木小学校	切木小学校	R5.8.4	採土器 表層から 0～5cmを採土 (一財)九州環境 管理協会)	615.1g	615.1g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	500.3g	18.66%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 105.77g	Ge(Int) 80000秒
R5.8.4		採土器 表層から 0～5cmを採土 (一財)九州環境 管理協会)	615.1g	615.1g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	500.3g	18.66%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 105.77g	Ge(Int) 80000秒	

※ 発電所から距離5～30km圏内の陸土については、試料採取、前処理及び測定を(一財)九州環境管理協会に委託して実施した。

(環境センター) No.5

試料名	採取地点	採取状況				前処理						測定			
		年月日	採取方法	採取量	供試量	部位	処理法	乾重量	含水量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量	測定器
海底土 (表層土) (放水口付近)	1、2号 放水口付近 (放水口の 沖合50m) 八田浦	R5.8.21	採泥器による 採取 (玄海水産振興 センター)	4702g	4702g	乾土 2mm ふるい 分け	105°C 乾燥	3245g	30.99%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 233.44g	Ge(Int) 80000秒
		R5.8.21	採泥器による 採取 (玄海水産振興 センター)	4085g	4085g	乾土 2mm ふるい 分け	105°C 乾燥	2775g	32.07%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 226.69g	Ge(Int) 80000秒
		R5.7.18	円筒型 ドレンジ式 採泥器 (九州電力㈱)	3115g	3115g	乾土 2mm ふるい 分け	105°C 乾燥	2105g	32.42%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 218.89g	Ge(Int) 80000秒
海底土 (表層土) (放水口付近)	八田浦											⁹⁰ Sr	乾 100g	LBC-4502 60分	

試料名	採取地点	採取状況				前処理						測定		
		年月日	採取法	採取量	供試量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量	測定器			
大気浮遊じん	今村	R5.7.1 ～ R5.7.31	ダストサンブラ (環境センター)	総吸引量 1.116×10^{10} $\text{cm}^3 \cdot \text{air}$	192.2g	450°C 灰化	27.5g	14.3%	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	灰 27.47g (生ろ紙 192g)	Ge(Int) 80000秒			
		R5.8.1 ～ R5.8.31	ダストサンブラ (環境センター)	総吸引量 1.116×10^{10} $\text{cm}^3 \cdot \text{air}$	179.1g	450°C 灰化	24.6g	13.7%	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	灰 25.61g (生ろ紙 186g)	Ge(Int) 80000秒			
		R5.9.1 ～ R5.9.30	ダストサンブラ (環境センター)	総吸引量 1.080×10^{10} $\text{cm}^3 \cdot \text{air}$	114.5g	450°C 灰化	17.0g	14.8%	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	灰 16.35g (生ろ紙 110g)	Ge(Int) 80000秒			

(九州電力株式会社) No.1

令和5年度 第2四半期

試料名	採取地点	採取状況			前処理						測定			
		年月日	採取方法	採取量	供試量	部位	処理法	乾重量	含水量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量
牛乳	浜野浦	R5.8.24	購入 (畜産農家)	21.43L	17.43L	原乳	105°C 乾燥	—	450°C 灰化	128.3g	0.736 w/v%	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	灰 60.90g (生 8.27L)	Ge(Int) 80000秒
				—	生4L	—	—	—	—	—	—	—	^{131}I	生 4L
松葉	敷地内	R5.8.21	手摘み (九州電力株式会社)	8270g	8270g	葉のみ	105°C 乾燥	3440g	58.40%	乾 3344g 450°C 灰化	127.1g	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	灰 66.97g (生 4236g)	Ge(Int) 80000秒
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	^{131}I	乾 95.88g (生 2305g)
いも (ヤマイカ)	八田浦 周辺	R5.7.20	購入 (外津漁協)	10320g	10320g	全身	105°C 乾燥	—	450°C 灰化	220.5g	2.137%	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	灰 69.95g (生 3273g)	Ge(Int) 80000秒

(九州電力株) No.2

試料名	採取地点	採取状況			前処理			測定			
		年月日	採取方法	採取量	供試量	前処理法	測定区分	測定量	測定器		
陸水 (河川水)	志礼川	R5.7.24	手汲み 表層水 (九州電力株)	60L	20L	蒸発乾固法	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	20L	Ge(Int) 80000秒		
					5L			硝酸銀法	^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒
					100mL					蒸留法	^3H
陸水 (ダム水)	敷地内	R5.7.25	手汲み 表層水 (九州電力株)	60L	20L	蒸発乾固法	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	20L	Ge(Int) 80000秒		
					5L			硝酸銀法	^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒
					100mL					蒸留法	^3H
海水 (表層水) (放水口付近)	1、2号 放水口付近 (放水口の 沖合50m) 八田浦	R5.7.18	ポンプ 吸い上げ方式 水深70～80cm (外津漁協)	60L	20L	AMP・MnO ₂ 法	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	20L	Ge(Int) 80000秒		
					5L			クエン酸銀法	^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒
					20L					AMP・MnO ₂ 法	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co
	5L	クエン酸銀法	^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒						
	20L			AMP・MnO ₂ 法	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	20L	Ge(Int) 80000秒				
	5L	クエン酸銀法	^{131}I			5L	Ge(Int) 80000秒				
海水 (表層水) (取水口付近)	1、2号 取水口付近 (取水口の 沖合50m) 外津浦					R5.7.6	ポンプ 吸い上げ方式 水深70～80cm (外津漁協)	60L	20L	AMP・MnO ₂ 法	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co
		5L	クエン酸銀法	^{131}I	5L				Ge(Int) 80000秒		
		20L			AMP・MnO ₂ 法				^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co		
5L	クエン酸銀法	^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒							
海水 (表層水) (取水口付近)			3、4号 取水口付近 (取水口の 沖合250m) 外津浦	R5.7.6		ポンプ 吸い上げ方式 水深70～80cm (外津漁協)	60L	20L		AMP・MnO ₂ 法	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co
	5L	クエン酸銀法			^{131}I			5L	Ge(Int) 80000秒		
	5L							クエン酸銀法	^{131}I		

(九州電力株) No.3

試料名	採取地点	採取状況				前処理						測定			
		年月日	採取方法	採取量	供試量	部位	処理法	乾重量	含水量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量	測定器
海底土 (表層土) (放水口付近)	1、2号 放水口付近 (放水口の 沖合50m) 八田浦	R5.7.18	潜水夫による 採取 海底表層土 (外津漁協)	3950g	3950g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	2240g	43.29%	—	—	—	134Cs, 137Cs, 60Co	乾 171.95g	Ge(Int) 80000秒
		R5.7.18	円筒型 ドレッジ式 採泥器 (九州電力株)	4710g	4710g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	3160g	32.91%	—	—	—	134Cs, 137Cs, 60Co	乾 214.39g	Ge(Int) 80000秒
海底土 (表層土) (放水口付近)	1、2号 取水口付近 (取水口の 沖合50m) 外津浦	R5.7.6	潜水夫による 採取 海底表層土 (外津漁協)	3970g	3970g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	2830g	28.72%	—	—	—	134Cs, 137Cs, 60Co	乾 220.67g	Ge(Int) 80000秒
		R5.7.6	円筒型 ドレッジ式 採泥器 (九州電力株)	4610g	4610g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	3220g	30.15%	—	—	—	134Cs, 137Cs, 60Co	乾 223.14g	Ge(Int) 80000秒

試料名	採取地点	採取状況				前処理						測定		
		年月日	採取法	採取量	供試量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量	測定器			
大気浮遊じん (ステーション ろ紙)	正門南	R5.6.30 ～ R5.9.29	連続エア- サンプ (九州電力株)	総吸引量 3.276 × 10 ¹⁰ cm ³ · air	601.2g	450℃ 灰化	89.0g	14.804%	134Cs, 137Cs, 60Co	灰 24.12g (生ろ紙 163g)	Ge(Int) 80000秒			

5 測定方法及び測定機器

調査項目		調査機関	測定法	測定器	
				佐賀県	九州電力
空間放射線	空間放射線量率 (モニタリングポスト)	固定型モニタリングポスト (県・九電)、放水口モニタ (九電) による連続測定 (テレメータシステム)	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3"φ×3"円柱型 (温度補償・エネルギー補償回路付) 日立アロカメディカル (多重波高分析器付) MSR-R69-22234	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 2"φ×2"円柱型 (温度補償・エネルギー補償回路付) 富士電機 NDS3AAA2-BYYYY-S	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3"φ×3"円柱型 富士電機 N16E-116
	放水口計数率 (放水口モニタ)				
	空間放射線量率 (走行サーバイカー)	車載型検出器による連続走行測定 「連続モニタによる環境γ線測定法」(平成29年改訂 原子力規制庁) に準ずる。	CsI(Tl)シンチレーション式検出器 2"φ×2"円柱型 シリコンダイオード検出器 (エネルギー補償回路付) ミリオンテクノロジーズ HDS-101G	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3"φ×3"円柱型 (温度補償・エネルギー補償回路付) 日立製作所 ADP-1132	
環境試料中の放射能	ガンマ線放出核種 ・ ⁶⁰ Co ・ ¹³¹ I ・ ¹³⁴ Cs ・ ¹³⁷ Cs	「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(平成4年改訂 文部科学省) 及び「放射性ヨウ素分析法」(平成8年改訂 文部科学省) に準ずる。	高純度ゲルマニウム半導体検出器 オルテック GEM30-70-LB-C-HJ GEM-C8065-LB-C-HJ-S** キャンベラジャパン GX4018-7915-30ULB** 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA-7a MCA-7** キャンベラジャパン DSA-1000**	高純度ゲルマニウム半導体検出器 キャンベラジャパン GC3018 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA-7a	
	ストロンチウム90(⁹⁰ Sr)	「放射性ストロンチウム分析法」(平成15年改訂 文部科学省) に準ずる。	低バックグラウンド放射能自動測定装置 日立製作所 LBC-4502 キャンベラジャパン LB4200**	低バックグラウンド放射能自動測定装置 日立製作所 LBC-4602	
	トリチウム(³ H)	「トリチウム分析法」(平成14年改訂 文部科学省) に準ずる。	低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置 日立製作所 LSC-LB7	低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置 日立製作所 LSC-LB8	

※ 分析委託先(一般財団法人九州環境管理協会)が使用。

(続き)

調査項目		調査機関	測定法	測定器	
				佐賀県	九州電力
大気浮遊じん中の放射能	ガンマ線放出核種 ・ ⁶⁰ Co ・ ¹³⁴ Cs ・ ¹³⁷ Cs		<ul style="list-style-type: none"> ・捕集 県：ダストサンプラで1か月吸引し、ろ紙上に捕集後灰化 九電：エアーサンプラで3か月吸引し、ろ紙上に捕集後灰化 ・測定 環境試料中の放射能-ガンマ線放出核種と同様 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕集 ダストサンプラ 応用光研工業 S-3063 ・測定 高純度ゲルマニウム半導体検出器 オルテック GEM30-70-LB-C-HJ 多重波高分析器 セイコー・イーゲーアンドジー MCA-7a 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕集 ダストサンプラ 富士電機 NAD-TA7C5463C01 ・測定 高純度ゲルマニウム半導体検出器 キャンベラジャパン GC3018 多重波高分析器 セイコー・イーゲーアンドジー MCA-7a
	放射性ヨウ素 ・ ¹³¹ I (可搬型ヨウ素モニタ)		約0.25m ³ 吸引後測定「全ベータ放射能測定法」(昭和51年改訂 文部科学省)に準ずる。	ヨウ素サンプラ アロカ DSM-R60 ヨウ素モニタ NaI(Tl)シンチレーション式検出器 2"φ×2"円柱型 アロカ ADP-1122	ヨウ素サンプラ 日立製作所 DSM-362BU3R1 ヨウ素モニタ NaI(Tl)シンチレーション式検出器 2"φ×2"円柱型 日立製作所 ADP-1122
	放射性ヨウ素 ・ ¹³¹ I (今村局)		約0.5m ³ 吸引後測定「全ベータ放射能測定法」(昭和51年改訂 文部科学省)に準ずる。	ヨウ素サンプラ 応用光研工業 S-3064 ヨウ素モニタ NaI(Tl)シンチレーション式検出器 2"φ×2"円柱型 応用光研工業 MSP-20S	

(注) メーカー名は購入時。

6 測定値の表示単位及び取扱い

測定項目		単位	測定値の取扱い
空間放射線量率	モニタリングポスト		nGy/h
	走行サーベイ	九州電力	nGy/h
		佐賀県	μSv/h
放水口計数率			cpm
環境試料中の放射能	ガンマ線 放出核種 ストロンチウム 90	農産物	Bq/kg 生
		植物	Bq/kg 生
		牛乳	Bq/L
		海産生物	Bq/kg 生
		土壌・海底土	Bq/kg 乾
	陸水・海水	mBq/L	
	トリチウム	陸水・海水	Bq/L
大気浮遊じん中の放射能		核種分析	mBq/m ³
		放射性ヨウ素	Bq/m ³

表示は整数とする。

表示は小数点以下 2 桁とする。
0.20μSv/h 未満の測定値は、測定器の測定精度保証範囲外であるため参考値とする。

表示は整数とする。

有効数字は 2 桁とする。
検出下限値は次の通りとする。

$3 \times \Delta N$
 ΔN は放射能の計数誤差とする。

検出下限値未満の測定値は「ND」と表示する。
「-」は調査計画外を示す。

7 令和5年度第2四半期 環境放射能調査項目

(1) 空間放射線

項目	佐賀県	九州電力
モニタリングポスト(NaI(Tl)シンチレーション式)	6 地点	4 地点
モニタリングポスト(電離箱式)	26 地点	-
放水口モニタ(NaI(Tl)シンチレーション式)	-	3 地点
走行サーベイ(CsI(Tl)シンチレーション式)	発電所から 5km~30 km	-

(2) 環境試料中の放射能

測定試料	試料名	採取場所	測定者		核種分析				
			県	九電	γ [*]	¹³¹ I	⁹⁰ Sr	³ H	
農畜産物・植物	牛乳	牛乳	栄	○		1	1	1	
			田野	○		1	1		
			浜野浦		○	1	1		
	穀物	米	平尾	○		1	1		
			諸浦	○		1		1	
	指標生物	松葉	納所	○		1	1		
敷地内				○	1	1			
海産生物	魚	たい	○		1				
		かわはぎ	○		1		1		
		えそ類	○		1				
	無脊椎動物	いか		○	1				
	指標生物	ほんだわら類	○		1	1	1		
	その他	むらさきいんこがい	○		1				
水	陸水	水道水	値賀出張所	○		1	1		1
		河川水	志礼川		○	1	1		1
		ダム水	敷地内		○	1	1		1
	海水	表層水	1、2号放水口付近	○		1	1	1	1
			1、2号放水口付近		○	1	1		
			3、4号放水口付近	○		1	1	1	1
			3、4号放水口付近		○	1	1		
			1、2号取水口付近		○	1	1		
3、4号取水口付近		○	1	1					
土	土壌	表層土	入野局	○		1		1	
			寺浦局	○		1		1	
			波多津局	○		1		1	
			田野局	○		1		1	
			切木小学校	○		1		1	
	海底土	表層土	1、2号放水口付近	○		1		1	
			1、2号放水口付近		○	1		1	
			3、4号放水口付近	○		1		1	
			3、4号放水口付近		○	1		1	
			1、2号取水口付近		○	1		1	
3、4号取水口付近		○	1		1				

※ ガンマ線放出核種として、⁶⁰Co、¹³⁴Cs 及び ¹³⁷Cs を測定。

(3) 大気浮遊じん中の放射能

測定方法	採取場所	測定者		測定項目	
		県	九電	γ ※	^{131}I
ダストサンプラで連続捕集し、回収したろ紙を灰化後、核種分析測定	今村	○		3	
	正門南		○	1	
ヨウ素サンプラ及びヨウ素モニタで捕集、測定	今村	○			1

※ ガンマ線放出核種として、 ^{60}Co 、 ^{134}Cs 及び ^{137}Cs を測定。

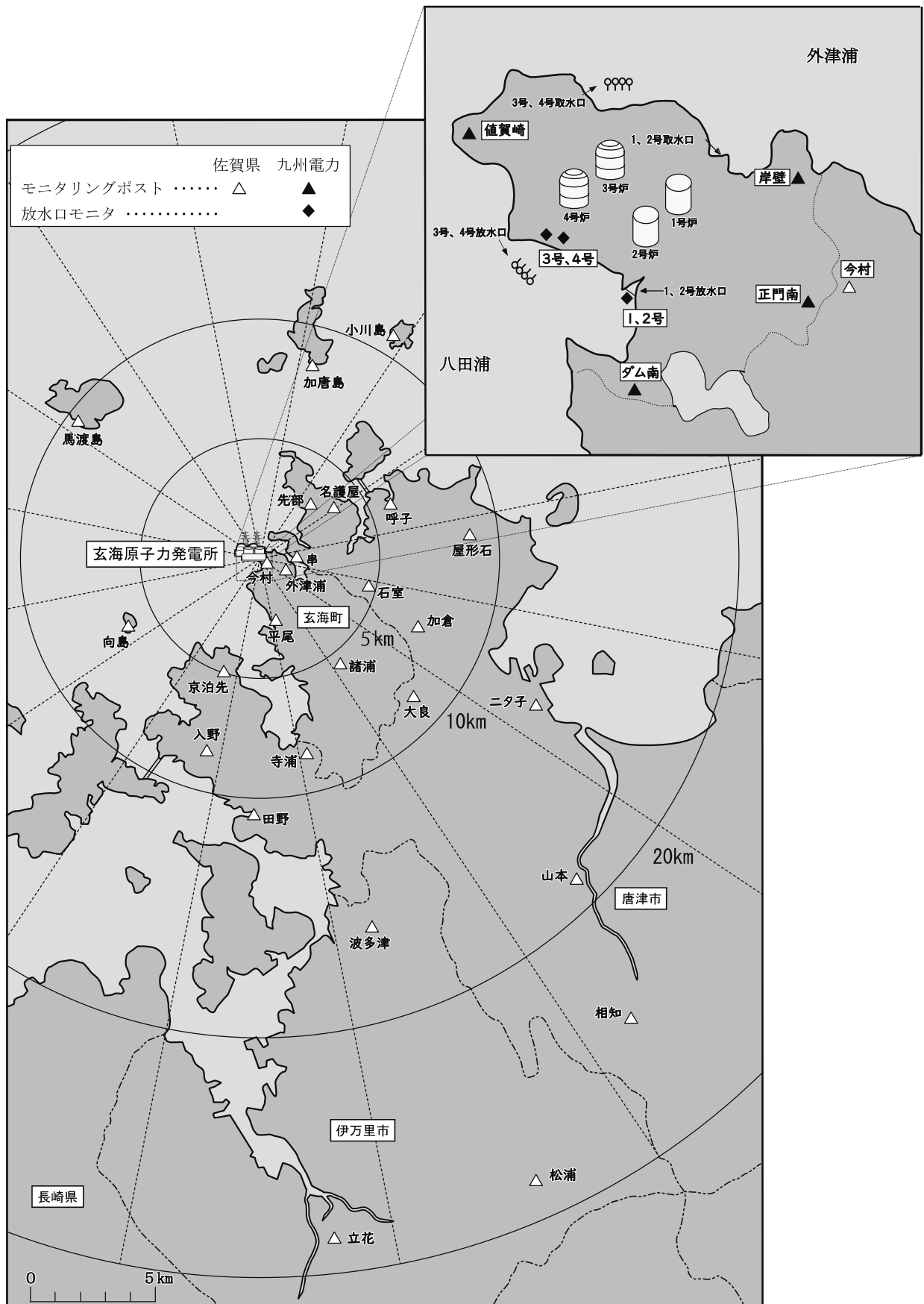


図1 空間放射線測定地点

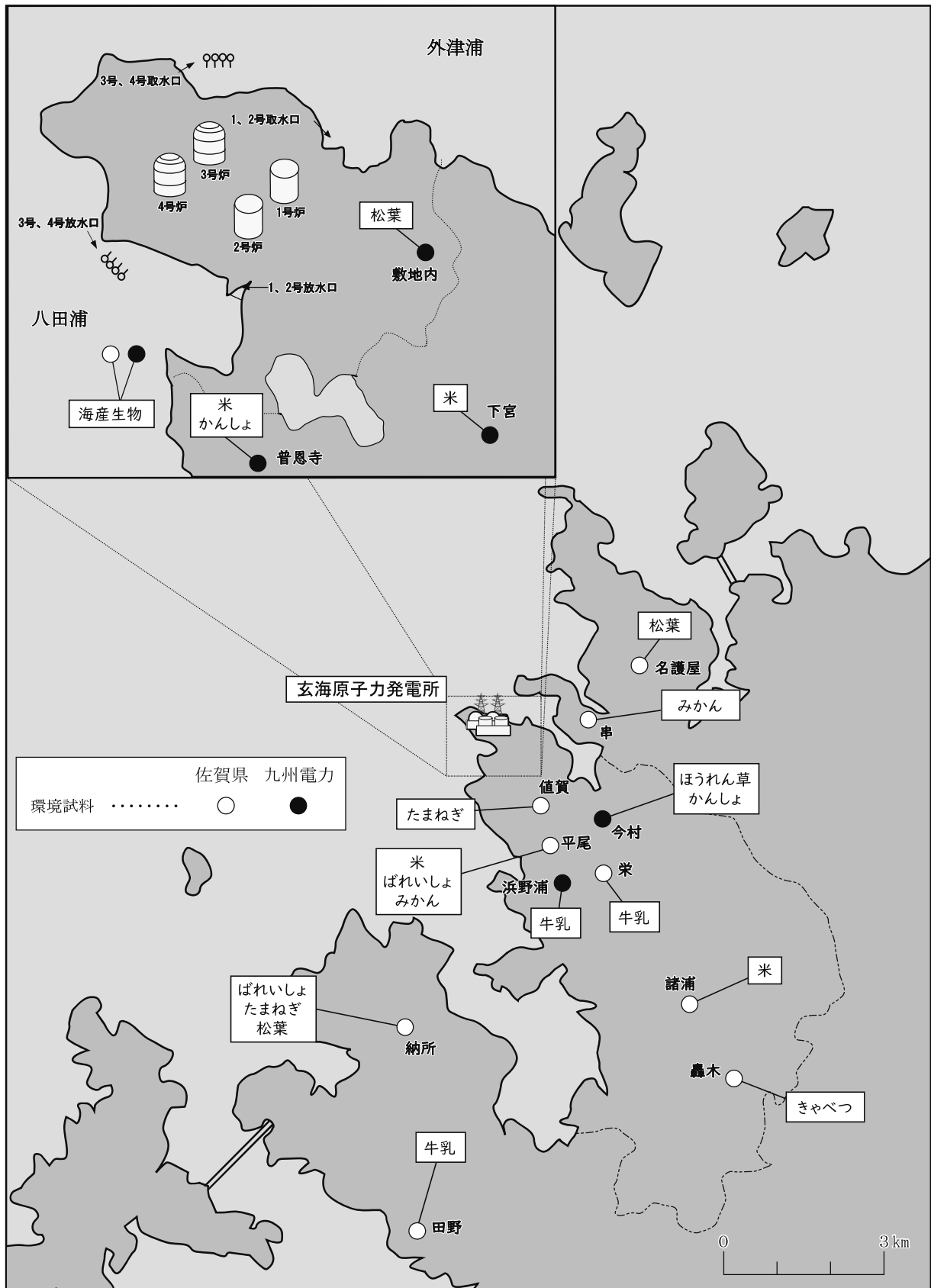


図2 環境試料採取地点（農畜産物・植物、海産生物）

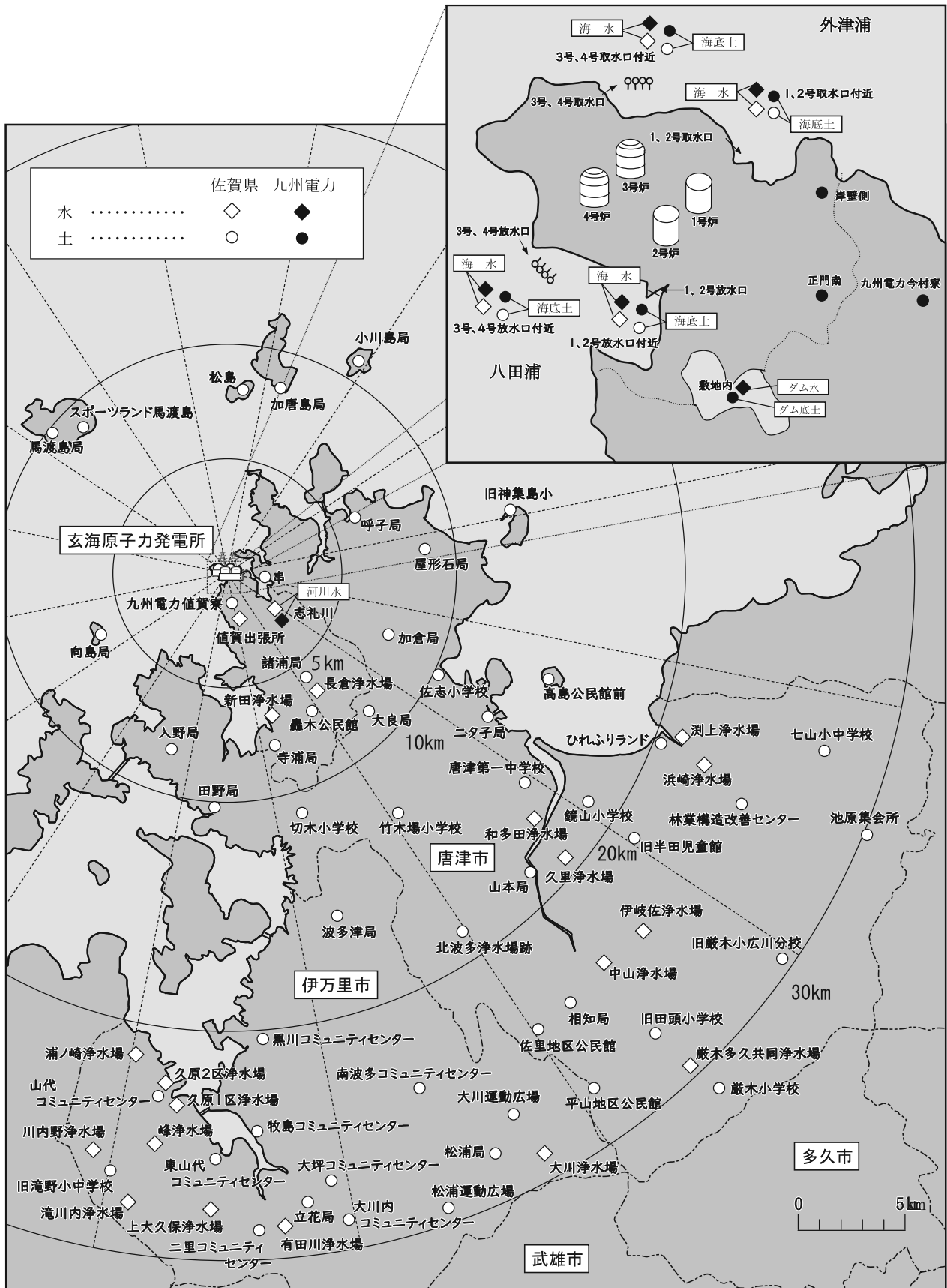


図3 環境試料採取地点（水、土）

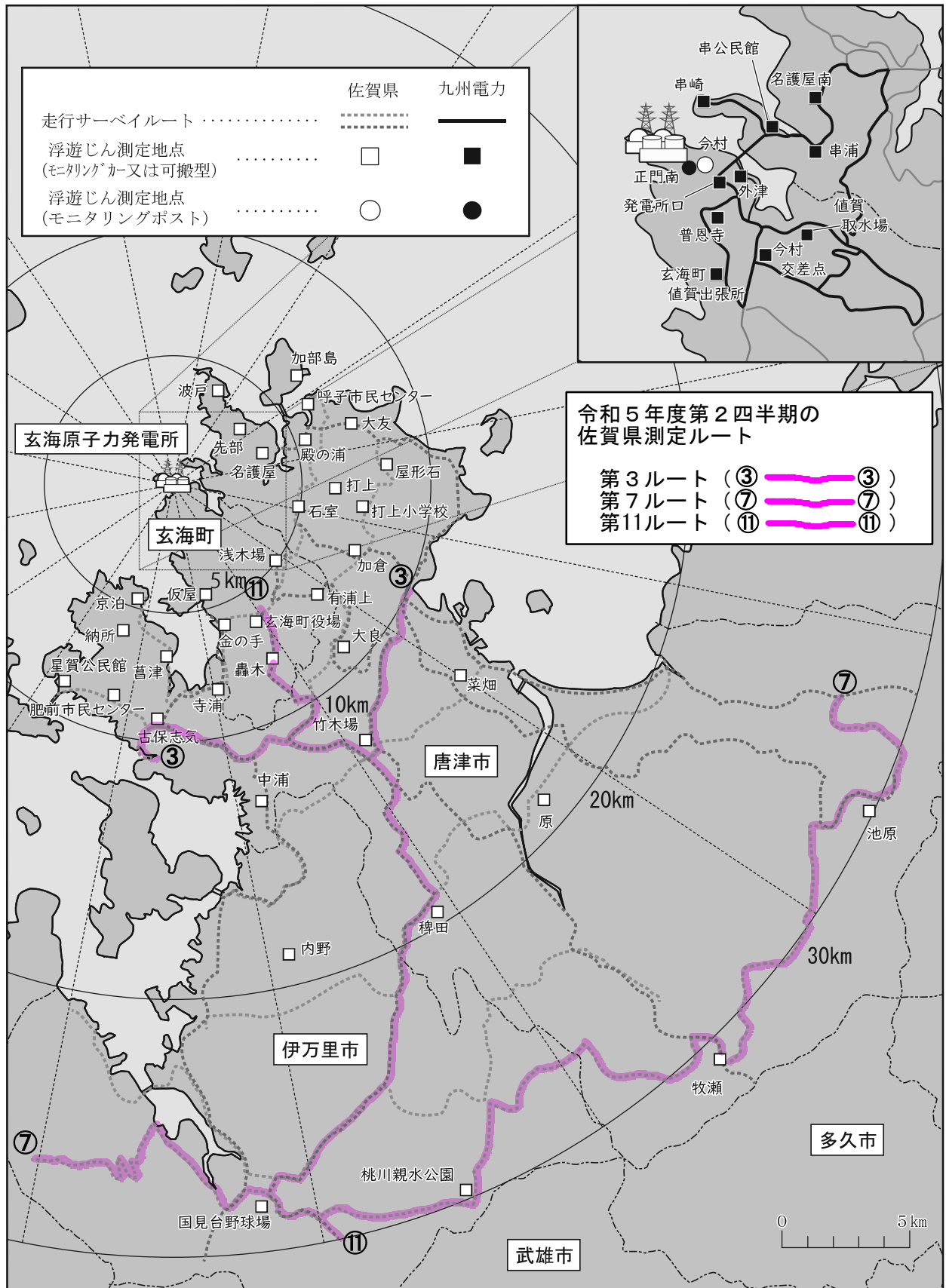
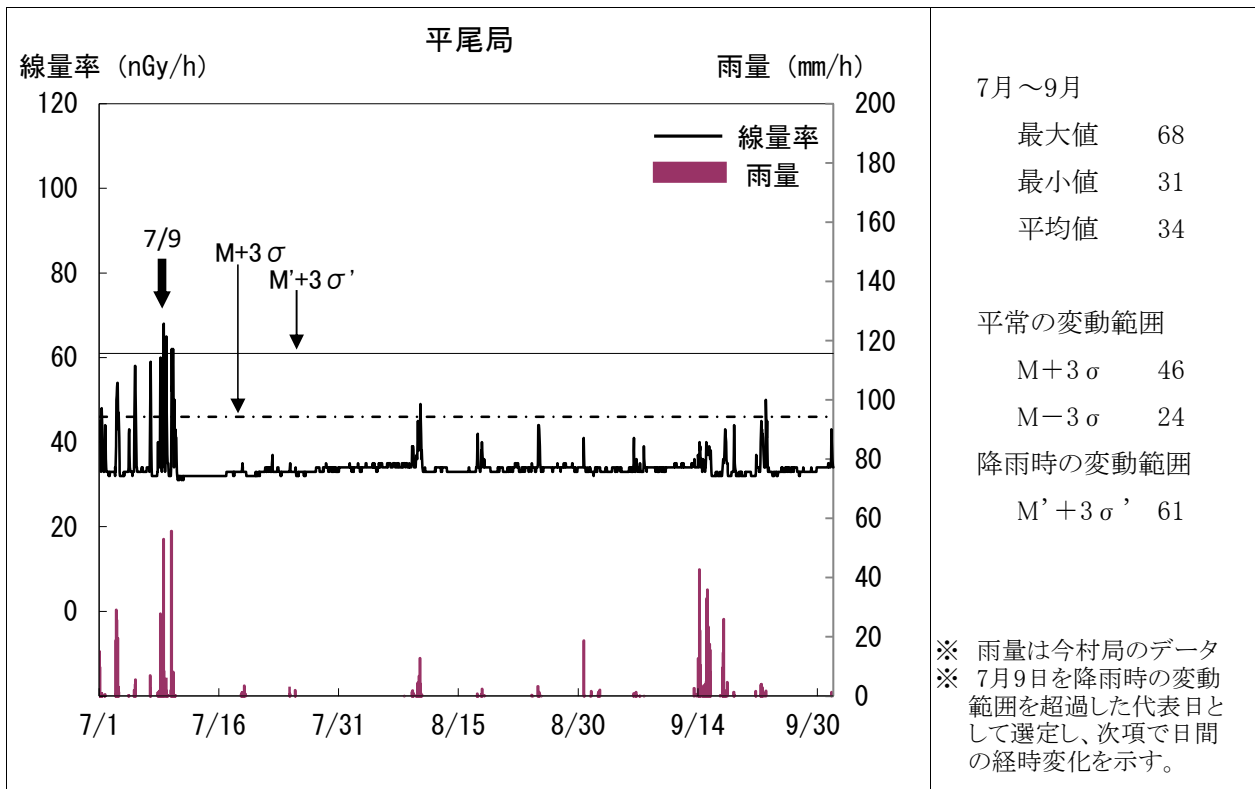
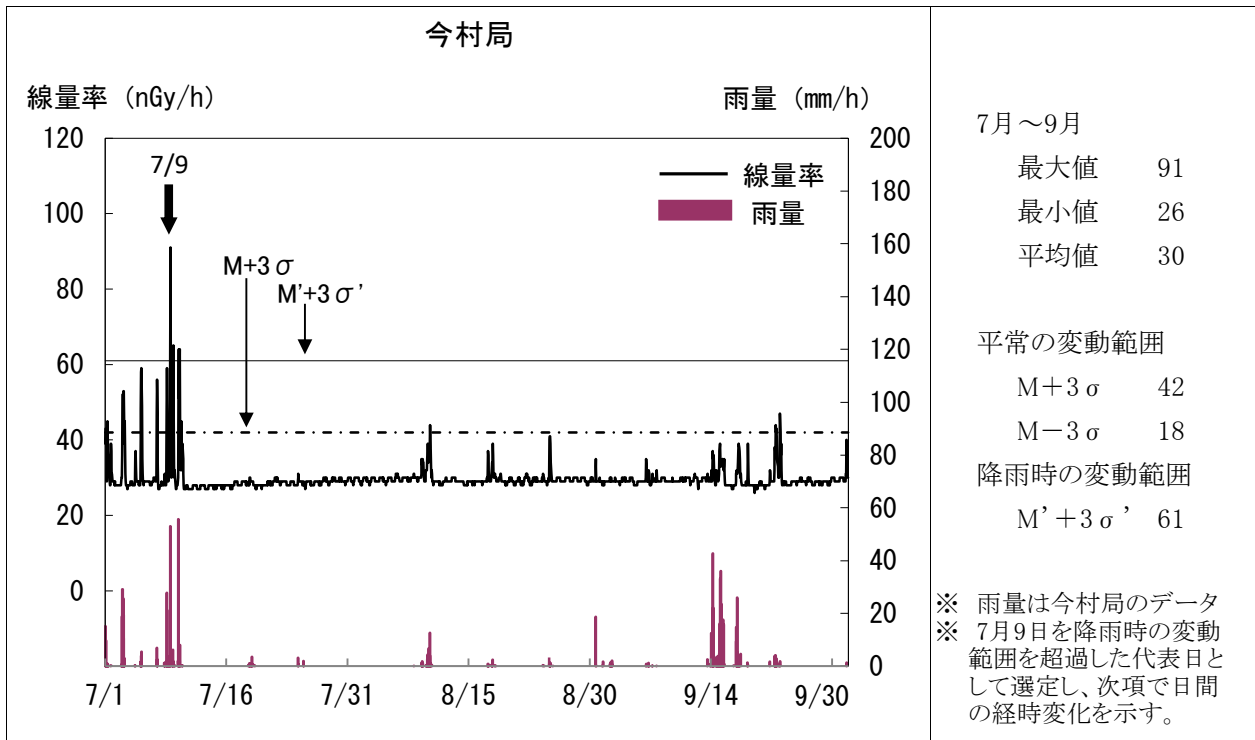


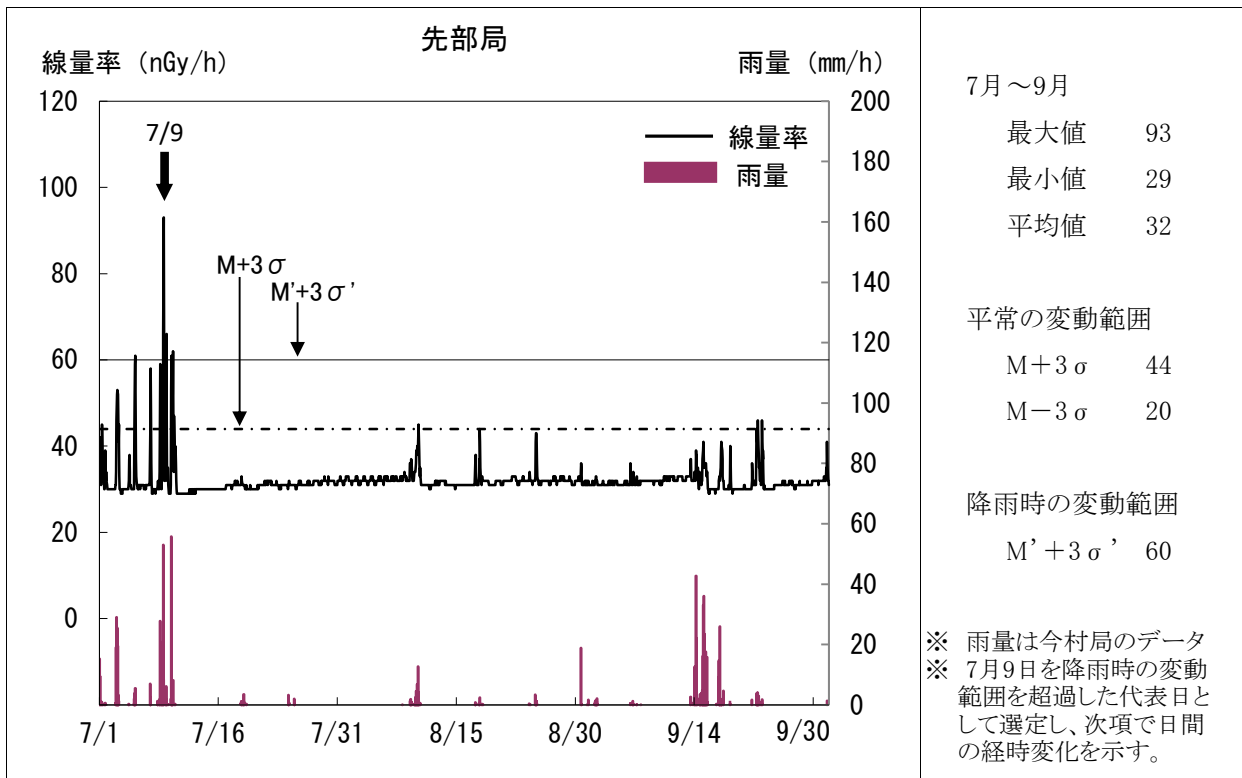
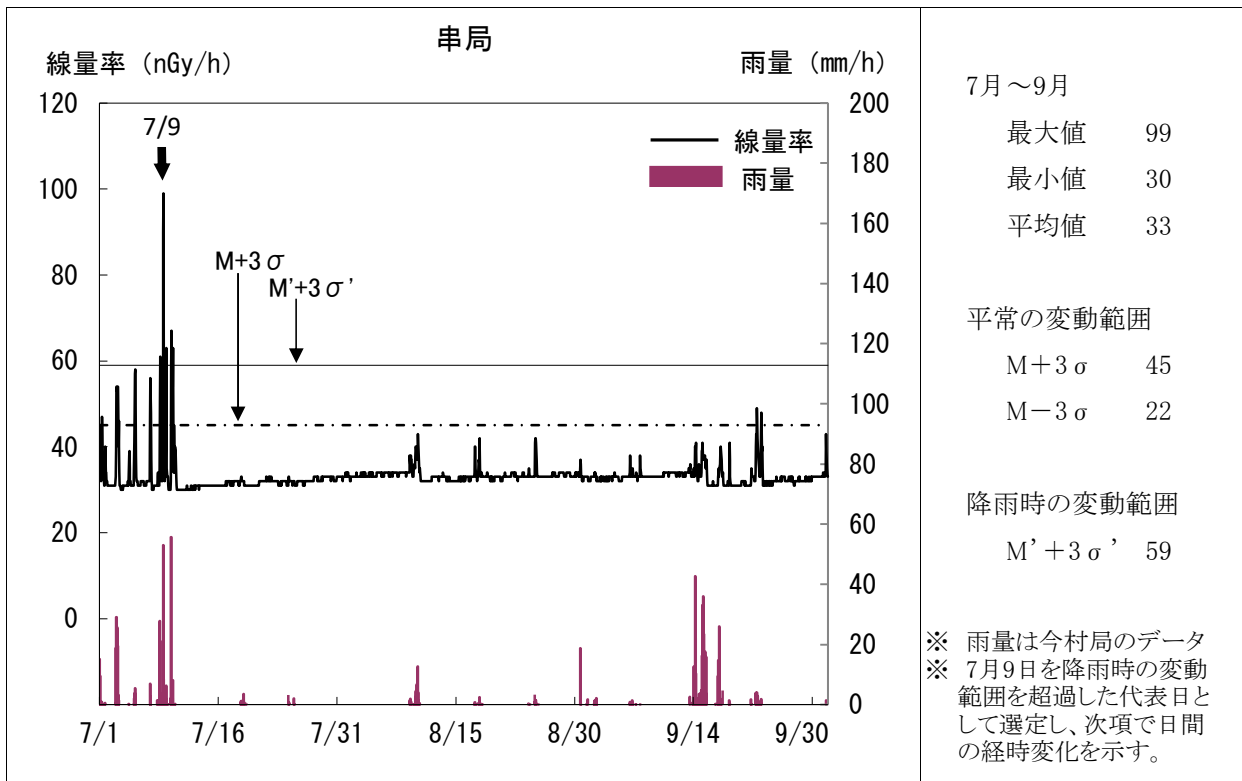
図4 空間放射線等測定地点（走行サーベイ、大気浮遊じん）

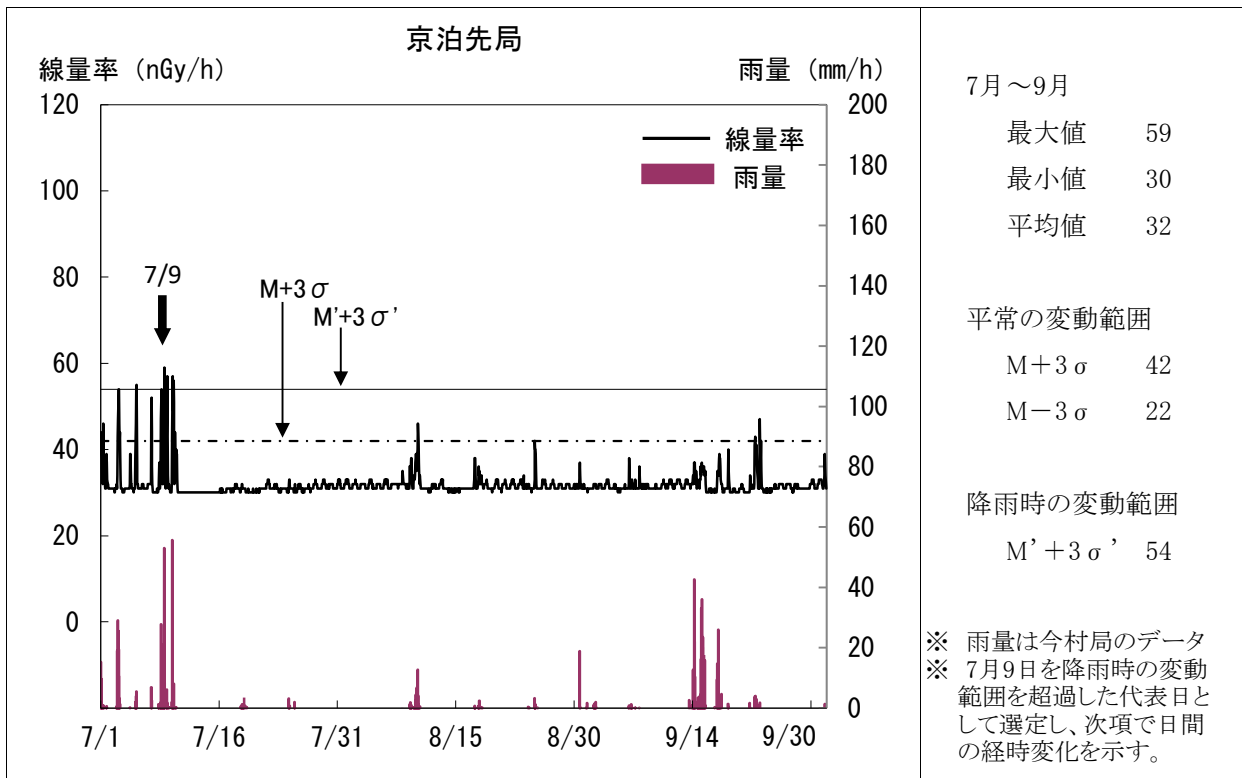
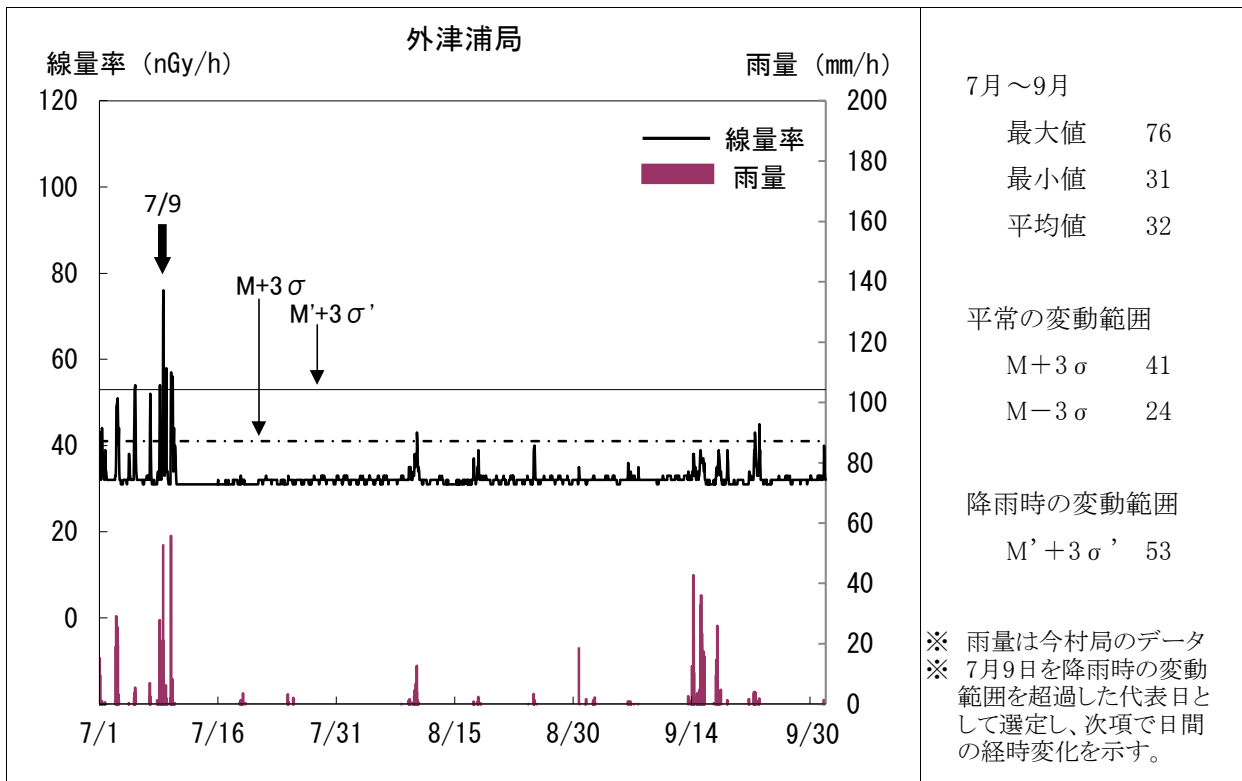
参 考 資 料

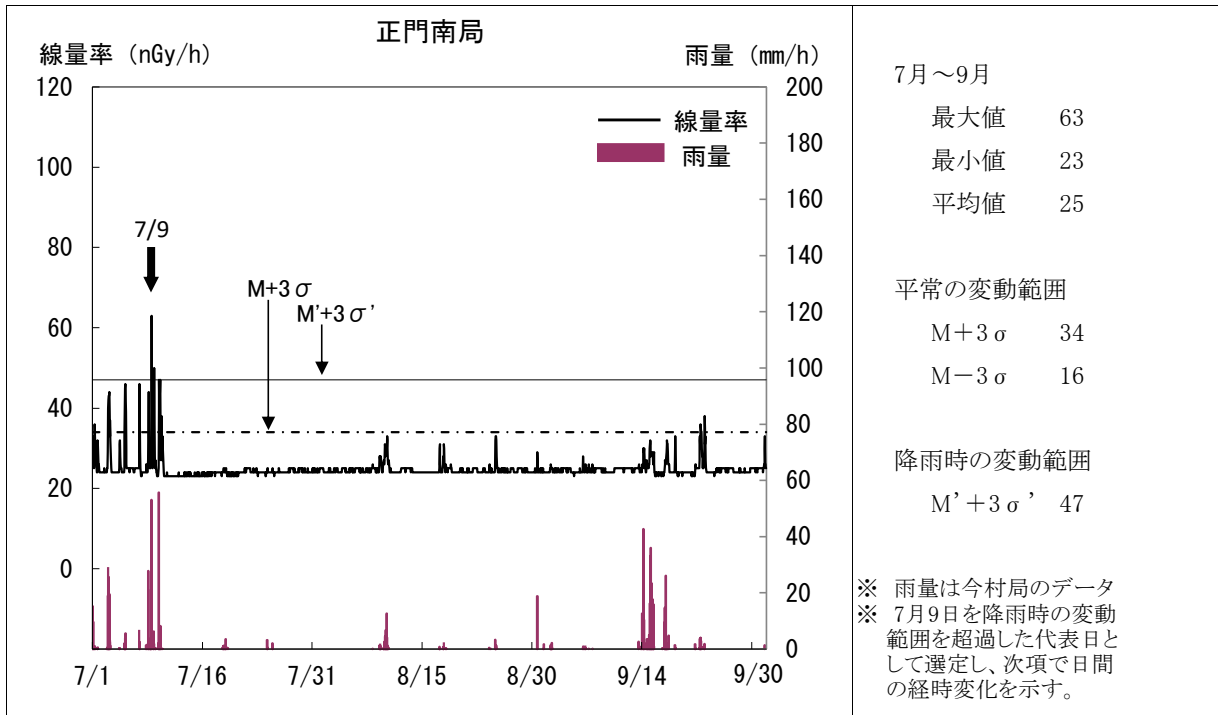
- 1 令和5年度第2四半期の空間放射線量率・放水口計数率等の経時変化
- 2 空間放射線量率(NaI(Tl)シンチレーション式検出器)及び放水口計数率が平常の変動範囲を超過した時の各モニタリングポスト及び放水口モニタにおける監視結果

1 令和5年度第2四半期の空間放射線量率・放水口計数率等の経時変化（1時間値）

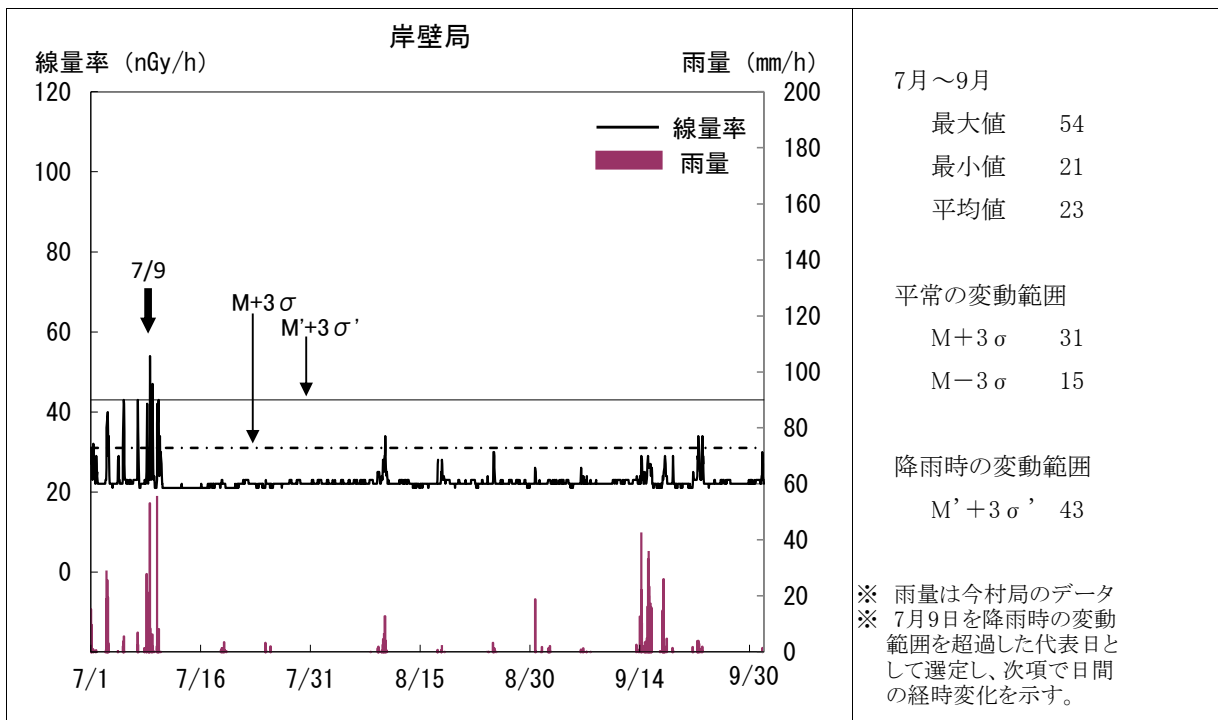




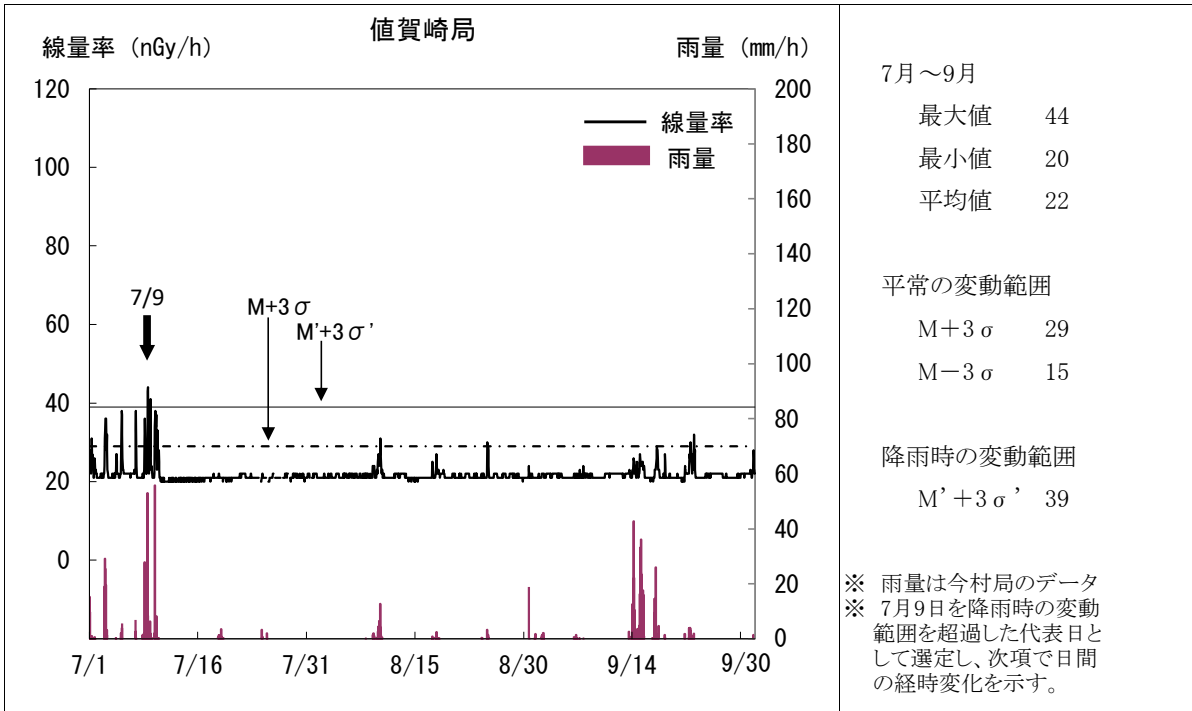




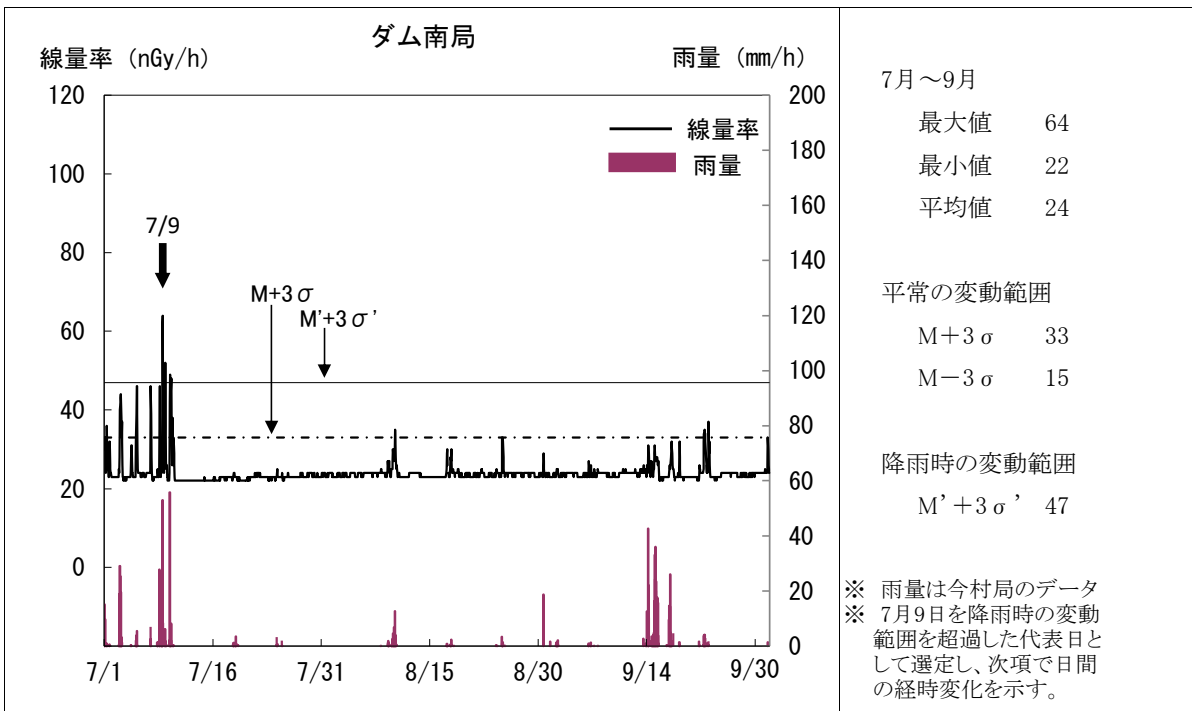
月例点検に伴う測定停止 (7/20 13:40～14:28、8/17 13:30～14:18、9/21 13:30～14:18) *



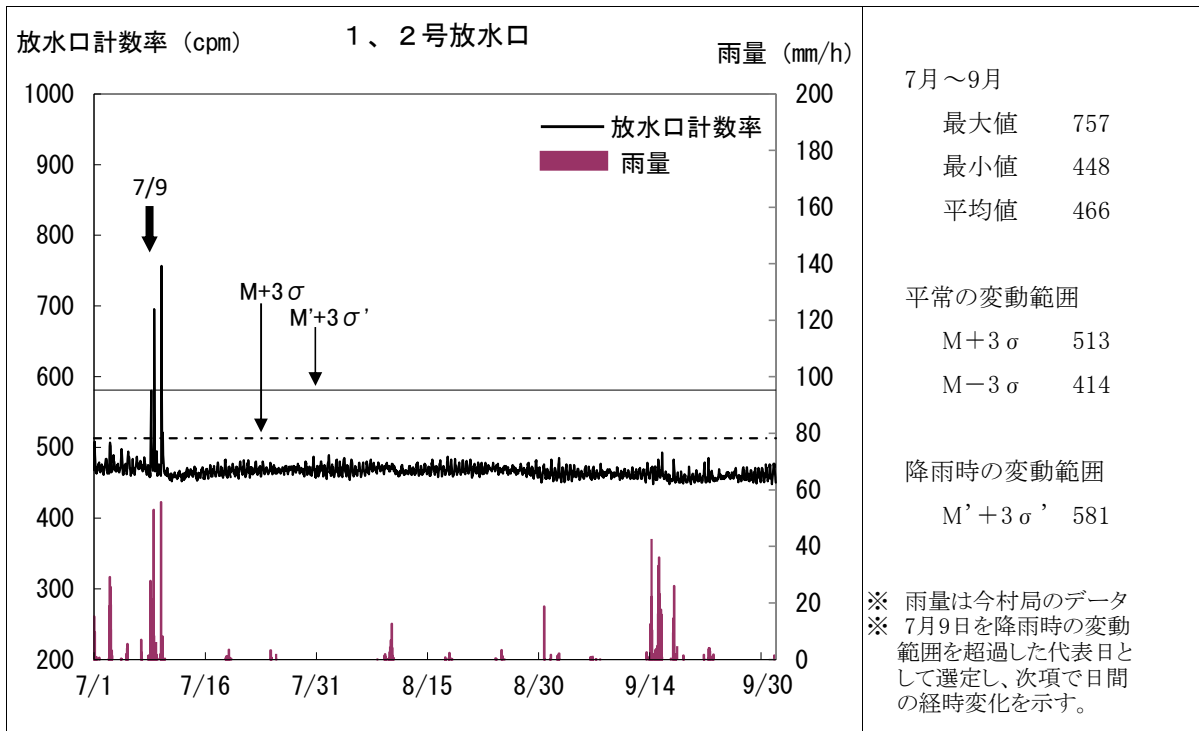
月例点検に伴う測定停止 (7/20 10:10～11:08、8/17 9:50～10:48、9/21 10:00～10:58) *



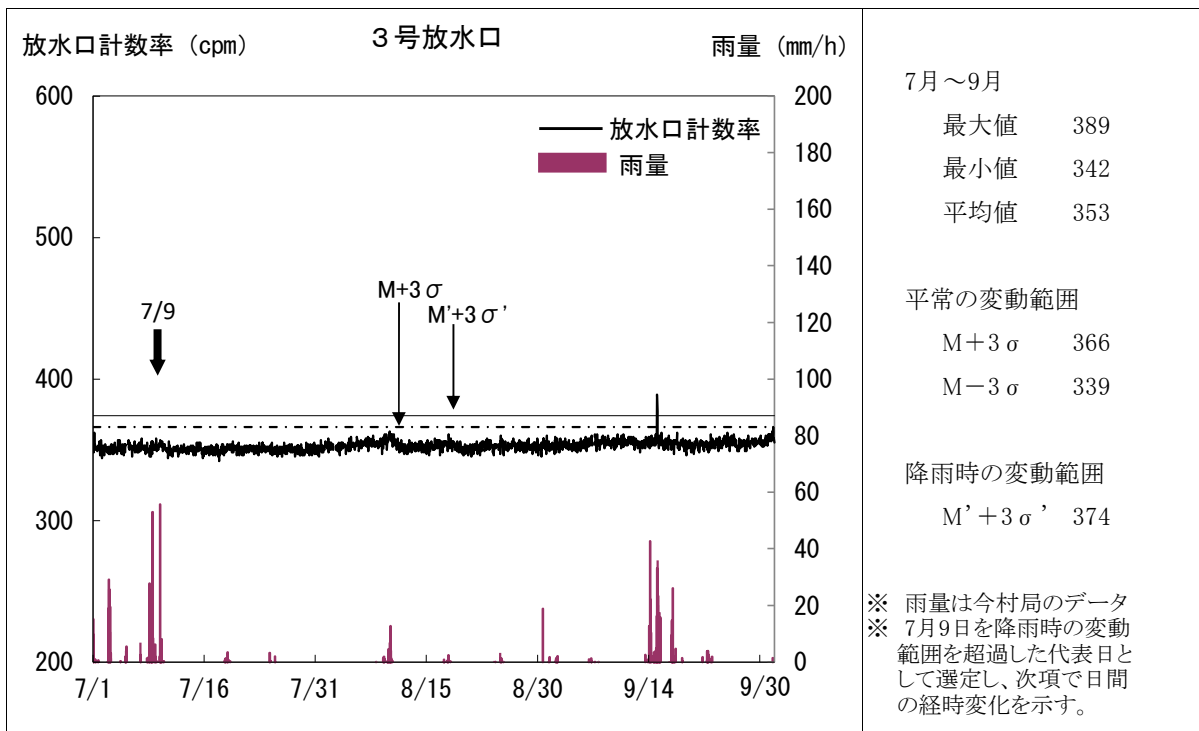
月例点検に伴う測定停止(7/20 14:30～15:28、8/17 14:20～15:18、9/21 14:20～15:18)＊
 計画点検に伴う測定停止(7/24 10:00～16:08、7/25 9:50～15:48、7/26 10:00～14:28、7/27 10:10～16:38、7/28 10:00～16:38、7/31 10:00～15:38)＊



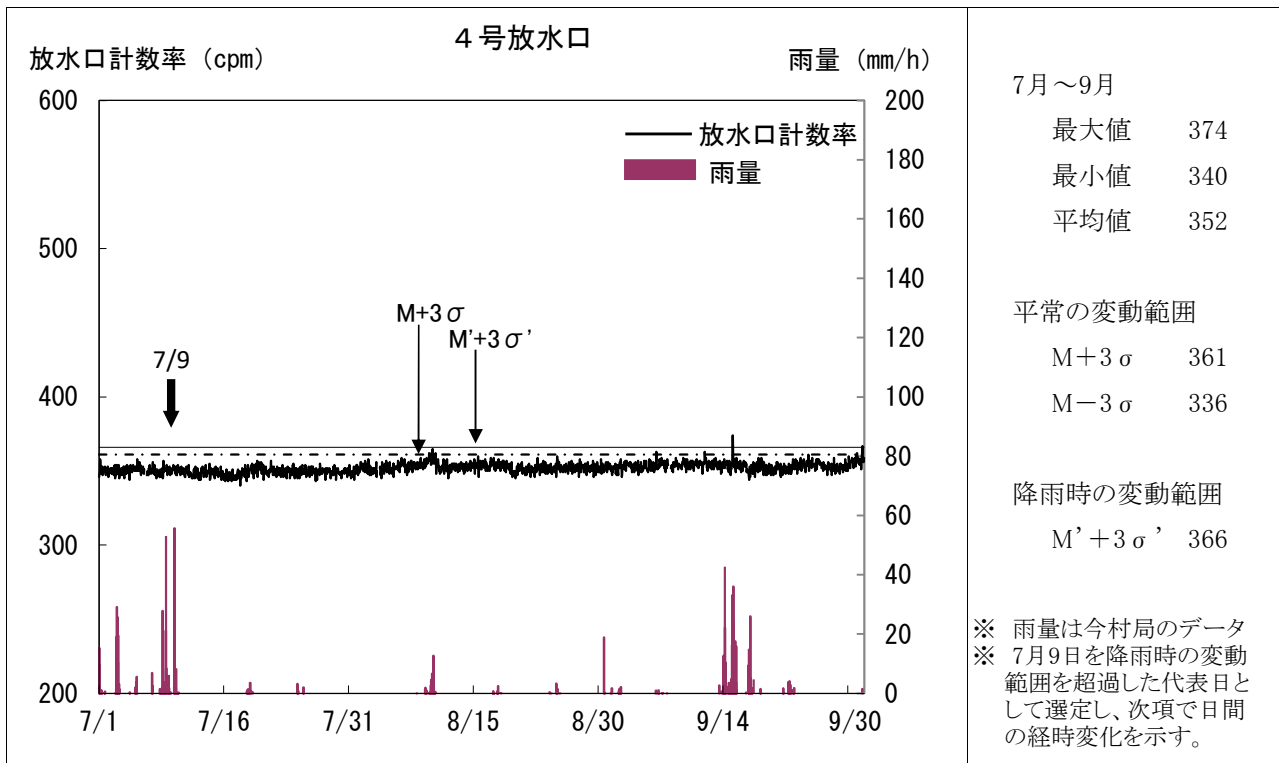
月例点検に伴う測定停止(7/20 11:10～12:08、8/17 10:50～11:38、9/21 11:00～11:48)＊



月例点検に伴う測定停止 (7/19 10:00～10:48、8/15 10:00～10:58、9/15 13:30～14:18)



月例点検に伴う測定停止 (7/5 9:50～16:38、8/2 10:00～16:38、9/6 9:50～16:28)



月例点検に伴う測定停止 (7/6 9:50～16:48、8/3 9:40～16:48、9/7 9:50～16:18)

【測定停止、伝送停止期間中の対応】

- * 可搬型モニタリングポストによる代替測定の記録(チャート紙)から異常がないことを確認
- ** 後日、測定記録(チャート紙)等から異常がないことを確認

※ 降雨時の変動範囲を超過した事例

- ① 令和5年7月5日 12時(先部、外津浦、京泊先)
- ② 令和5年7月8日 16時(串、外津浦)
- ③ 令和5年7月9日 1時～3時(串、先部)、1時～2時(今村、平尾、外津浦、正門南、岸壁、値賀崎、ダム南)、1時(京泊先)、3時(1、2号放水口)、10時(今村、平尾、串、先部、外津浦、京泊先、正門南、岸壁、値賀崎、ダム南)
- ④ 令和5年7月10日 2時(今村、平尾、串、先部、外津浦、京泊先、ダム南、1、2号放水口)、5時(平尾、京泊先)、6時(今村、串、先部、外津浦、ダム南)
- ⑤ 令和5年9月15日 3時～4時(3号放水口、4号放水口)
- ⑥ 令和5年9月30日 18時(4号放水口)

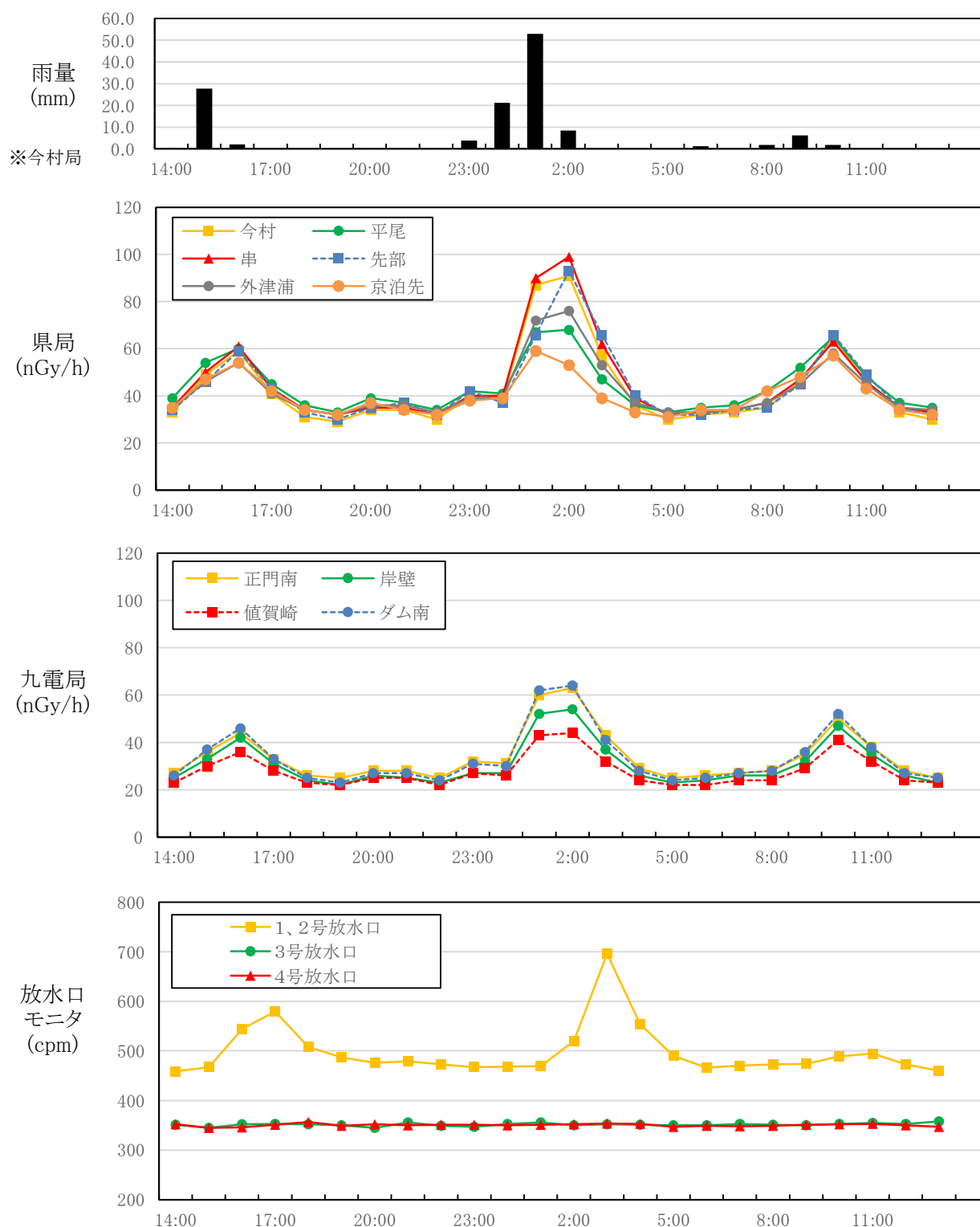
2 空間放射線量率 (NaI (Tl)シンチレーション式検出器) 及び放水口計数率が平常の変動範囲を超過した時の各モニタリングポスト及び放水口モニタにおける監視結果

【代表日： 令和5年7月9日 】

①各モニタリングポスト(NaI(Tl)シンチレーション式検出器)及び放水口モニタの経時変化

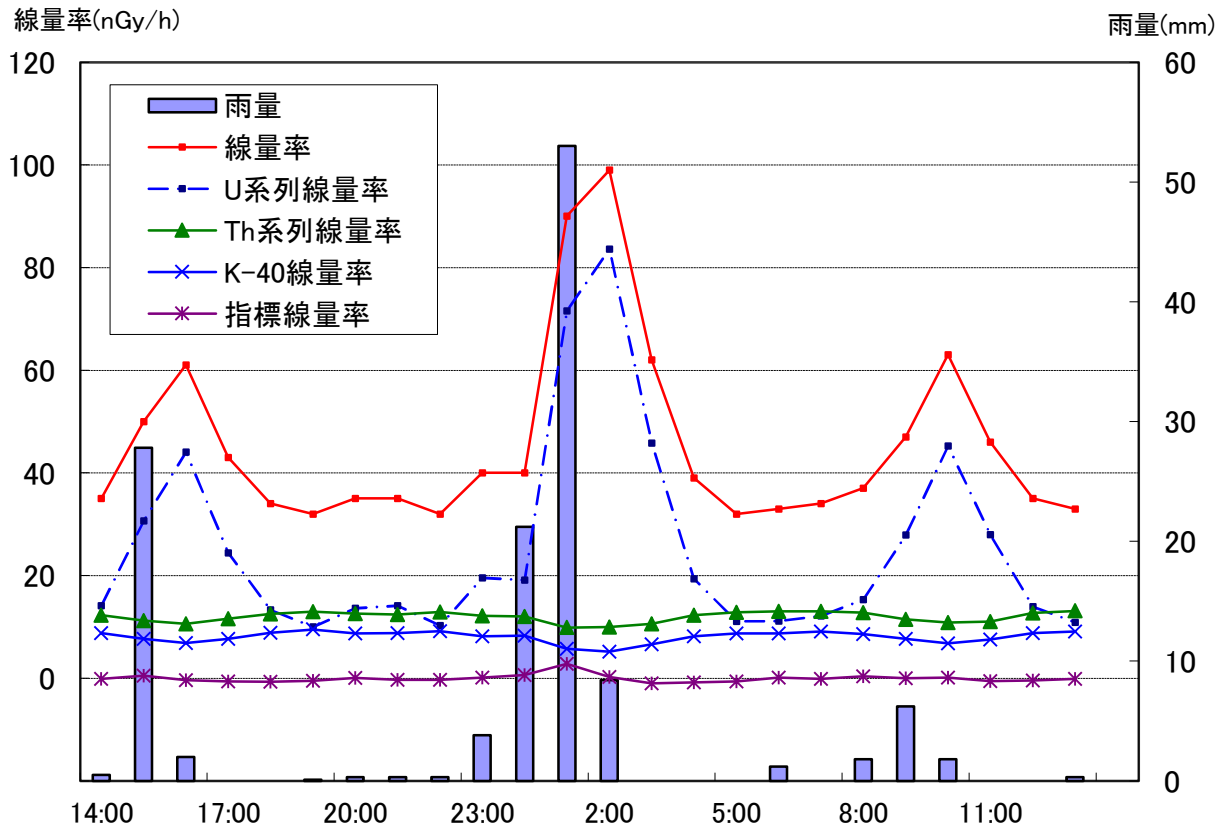
(令和5年7月8日14時～7月9日13時)

各モニタリングポストの値はおおむね雨量の変化と共に変動しており、
モニタリングポストの空間放射線量率は発電所からの方位に関係なく上昇していた。



- ② 代表局における空間放射線量率(NaI(Tl)シンチレーション式検出器)・U系列・Th系列・K-40・指標線量率・雨量の経時変化

【代表局】串局



県モニタリングポストの代表局として串局を選定し、NaI(Tl)シンチレーション式検出器付属の多重波高分析器で得られたデータを用いてスペクトル分析を行った。

串局における空間放射線量率は、ウラン(U)系列、トリウム(Th)系列、K(カリウム)-40の天然由来のもので占められており、空間放射線量率の上昇分は、ほぼ天然放射性物質のウラン系列で占められていた。